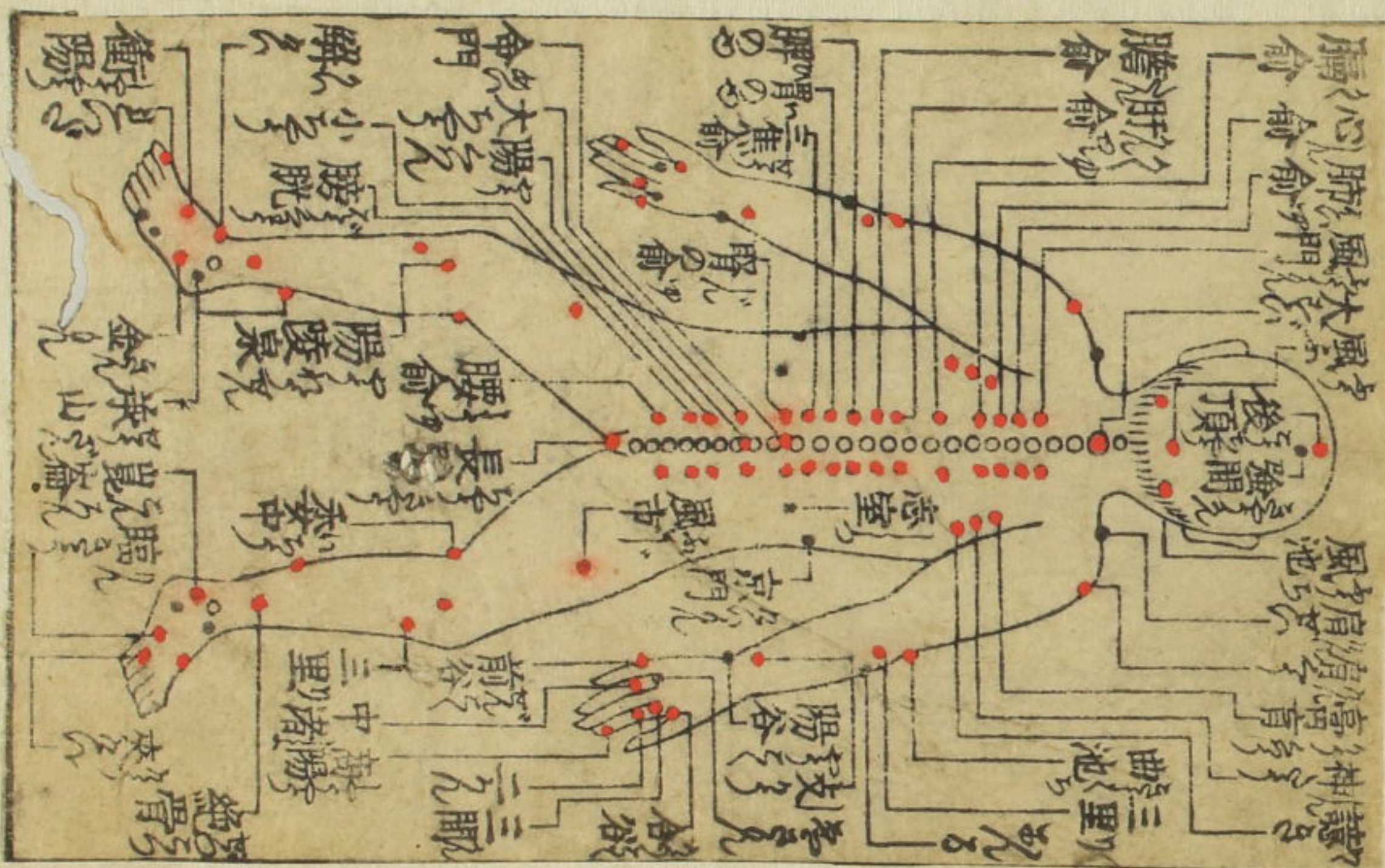


小便之所
精之所
大便之所



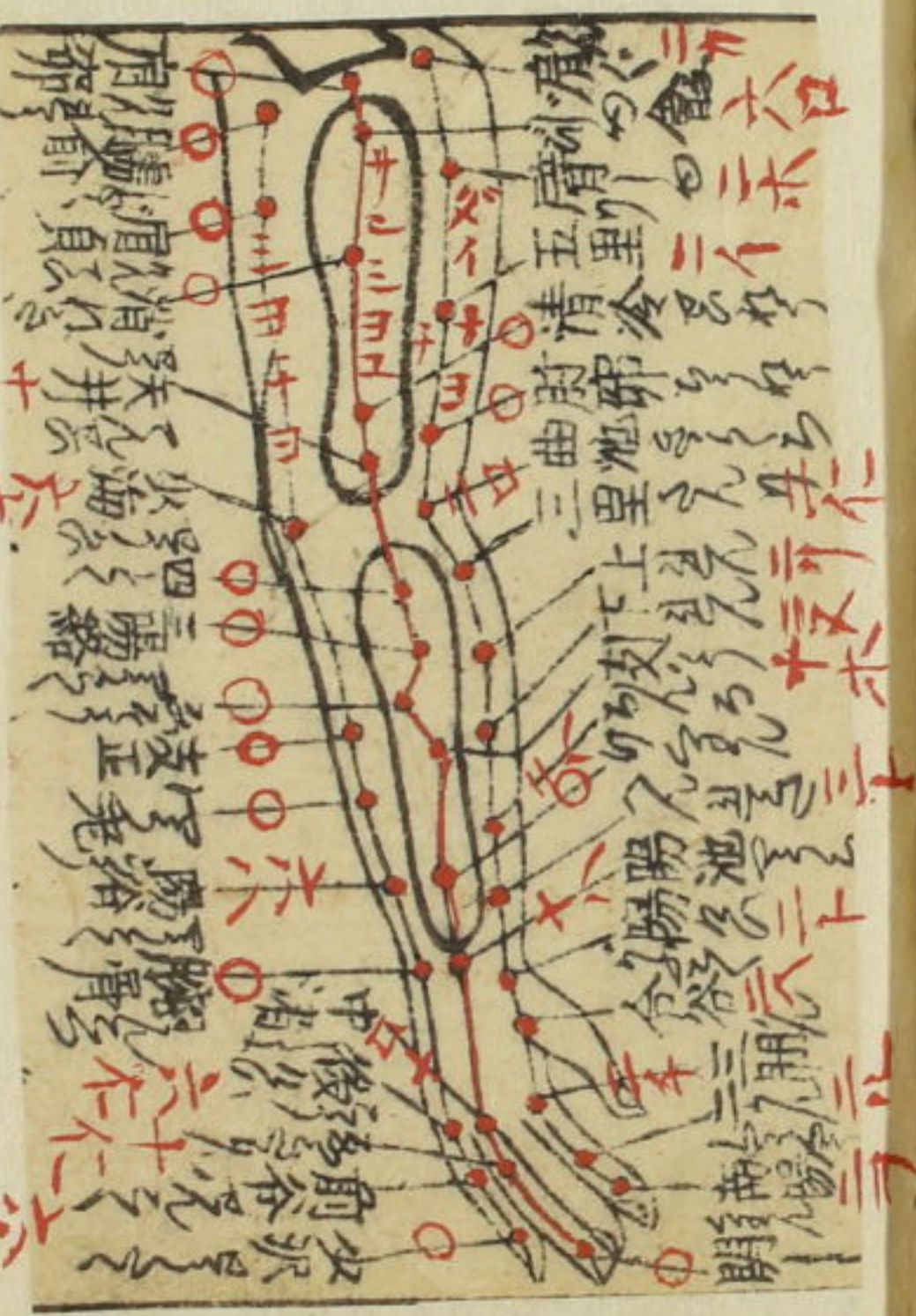
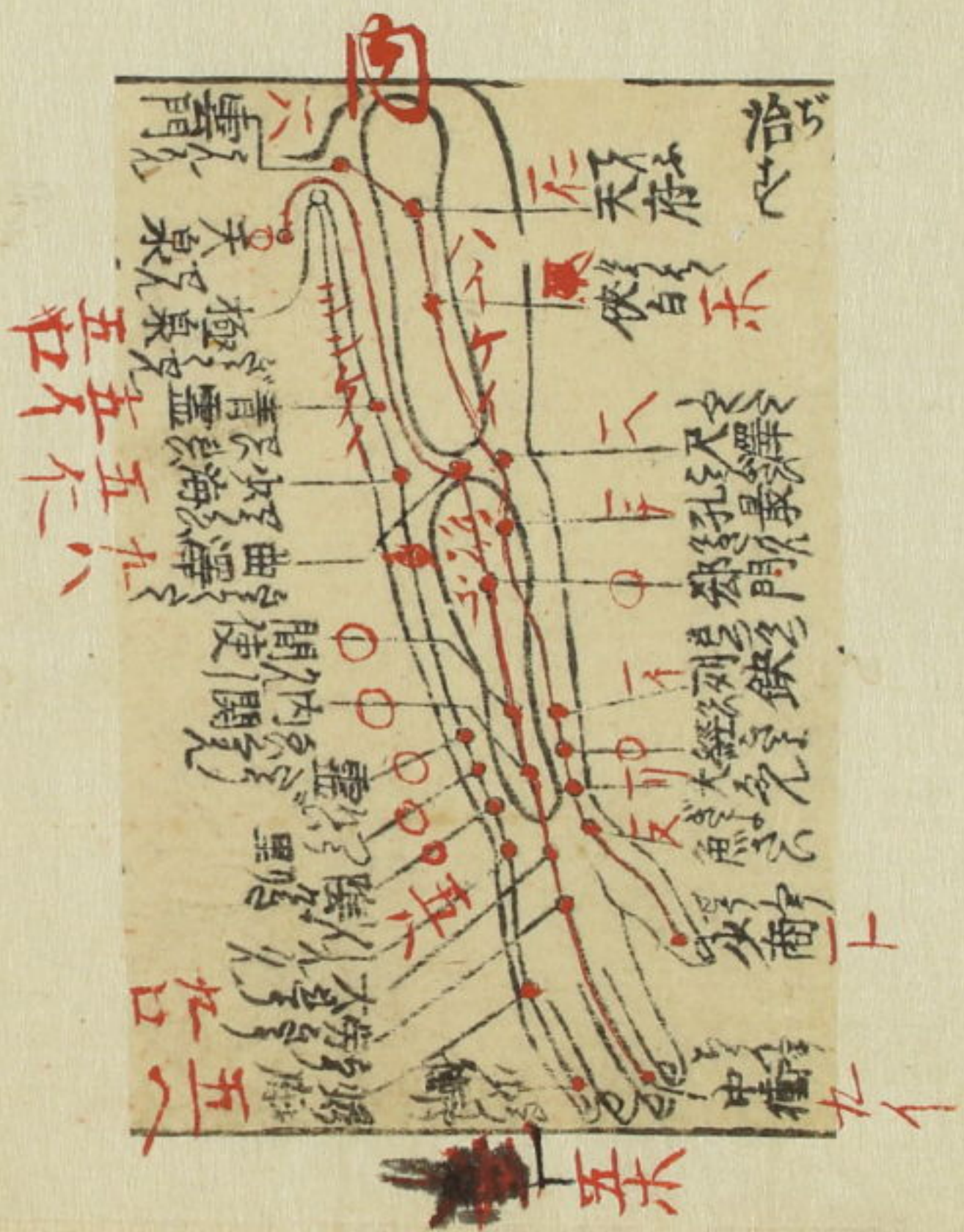
●患門二穴男左女右の足の天指
 の假点に當て上下の端は点と云
 四花の穴より中の假点のめりひき
 先患門の三穴と四花の横の二穴と合
 く四穴と同時に灸と一穴は廿一世つ
 毎日灸して一穴は百五十二世に至る
 其灸漸く愈んとするに堅の三穴と
 灸と一穴は七世つ毎日灸して一穴
 は五十世百世まで後三里に灸して
 氣下と傳尸勞咳骨蒸虛熱元
 氣の脱する先に灸とれは必ず効
 又崔氏は四花の穴は兩俞膽俞の四穴
 小合ら聚英は白く血は兩俞は會と
 膽の肝の府血藏と故に此を取
 類經四花の穴は崔氏四花の穴

痛
 三
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

●腰眼二穴病人立と腰をねん兩
 旁にせし階ありて兩眼のじ是
 穴より合面より一穴は七世十四世
 勞瘵の腰痛は妙多勞虫あれは吐
 う大便より下る灸亥の日亥の時灸
 とせ故に灸亥の穴と云俗に亥眼と云
 ●風市二穴膝の外正中膝の上七寸
 兩筋の間より立と身直は兩手齊
 下中指の頭の盡處階の中五十世百
 廿腰腿脛あびしと脚氣中風治

灸火

●斜差二穴脊の九推の下左へ一寸五分
 十一推の下右へ一寸五分肝俞八風邪の
 傷はれらるるの脾俞飲食を傷られ
 ざるは小兒の氣力腕より灸炷は
 勝るは四穴灸は肝の左に
 のり脾の右に灸は胃に二穴灸



一

●列缺二穴腕の側上一寸五分然

中凡
 咳嗽
 肝病
 腫痺
 冷生足

寸と以り知る左と右あり病人の右の
 食指と左の中指と食指との間小組入
 る右の食指の頭ののり灸と穴と右
 と取ると此の正針三分留ると三呼瀉
 五吸灸三壯七壯四九壯小のり中風口
 噤口眼ゆがみ手肘力なく半身不遂
 寒熱わたり咳嗽唇のり健忘弱み
 血のり精り陰痛小便熱驚
 癰腫腫肩痺胸脇冷尸厥手足腫を

四

一口
腹4足
腫喘氣
肺寒
食下ス

●中府二穴雲門の下二寸灸五壯針五分
腹脹手足不食下らば喘氣胸痞肩
背痛嘔吐效逆上氣肺系の病
肺の寒熱胸の悶熱効唾濁
涕風汗出面浮少氣して臥さざる
傷寒胸中熱し遁死と云ふ

傷寒
一八

●雲門二穴結喉の下五寸左右六寸づ
陷中針三分灸五壯傷寒手足熱
氣のり心胸と膈より背に走り
痛し肘とわくる能く喉痺とる
短氣瘵氣と治す

中凡
一仁

●天府二穴極泉の下三寸筋骨の間動
脈あり処より下の尺澤と目めてありて
点と禁灸針四分留て七呼或は三呼
卒中風邪氣飛尸悪産鬼語と云ふと治

一ホ
心痛
一八

●俠白二穴天府の下二寸動脈の處也
針三分灸五壯心痛短氣乾嘔心煩治
●尺澤二穴肘の中屈伸とる横文の中
中指と無名指との間の通り推む筋
骨の解の動脈の處針灸とる小肘の中
の青筋の中らぬやうふと針三分留
て三呼肩背の病中風小便數く嚏
く樂と寒熱風痺膈肘挛りさうの上
氣嘔吐口舌とる効嗽せり手足とる
あつた腫心痛心煩勞熱上氣腰背強
痛肺の積小兒慢と云ふと治す

心痛
強り
小人

一ト
ヨコリ
シヤリ

●少商二穴手大指の内側ら小指の方へ内
爪の生ざると一分灸と去ら針一分留ら
て三呼瀉の五吸禁灸頰腫喉閉の
下滿汗出く寒く痰瘧効逆腹脹不
食指の掌熱小兒の乳鵝と治す

十四經脈是動所生病

手太陽の脈ハ中焦膈の上より起り下りて
大腸と絡み還る胃口を循り膈に上り
肺に屬し肺の系より横膈下に出る
下て膈内より循り少陰心主の前を行く
臂の内上骨の下廉を循て寸口脈也魚
際より上り魚際より大指の端に出る
支の腕後より直下次指の内廉に達し
其端に出て手陽明の經に交る此經氣
多く血少し是動多と云ふ肺脹滿し
喘咳し缺盆のくく兩手と交る秋生
どろ所の病ハ咳嗽上氣喘鳴煩心胸
膈臂の内より肩背のくく實ハ風寒汗
出中風之虚ハ少氣溺色変じ遺失と

肺
喘
セキ
ケツ
ブ
痛

大
中
肌
セ
キ
ゼ
シ
ク

喘
セキ
カ
タ
セ
キ
イ
ニ
マ
タ
ヒ
タ
コ
シ
ラ
ミ
ナ
シ
痛

肺の氣を藏し魄を舎と皮と毛と
燥と成主る西方の金に屬し秋よ
旺し其脈の毛の如く浮あり
外候ハ鼻のありその聲ハ哭その臭ハ
腥し其味ハ辛し其液ハ涕その色
ハ白し其志ハ憂ふ其變動ハ咳その
經ハ手太陽その府ハ大腸その積ハ息
貫右の脇の邊にあり肺氣盛ありと
しん喘嗽上氣肩背のくく汗出尻陰
股膝踠脛足の痛む宜くこれ瀉と
るし不足と云ふは少氣ありと
息と云ふは足と耳聾嗌乾と溺の色変

針灸調

十五

卒に遺失しと度あり宜くこれ補て
青く怒り恐る人の捕ととらる
宜くこれ補と

七

ニイ ●五里二穴曲池の上三寸犬筋の真中
キヨ爪 欠あり肩髃肩の部と目的に禁針
吐血 灸十壯驚風吐血肘の口上氣心滿

禁針 身黄くういどとつて

ニロ ●曲池二穴肘の先と胸の間に
肘の横文の上方のくま曲る骨の間
針七分氣を得て瀉し後にこれを補と或
ハ五分留ると七呼灸三壯又日に七壯
つ二百壯といふ且停ると十日
又七壯中風半身くま手肘の風
からせと胸のくま肘瘦方々傷寒
の餘熱てんん身痛くも虫のくま
痲疥婦人經脈つてと治と

中凡

タタミ

目水

○ニカニ

●温溜二穴直に偏歴の上二寸腕のくま
五寸針三分灸三壯上氣めまてんん
風逆手足くま肘痛くも口舌痛くも

ニハ

目マイ
牛足
腫
○ニカニ

ニニ ●手三里二穴曲池の下二寸推の指の四
方の肉高く起る灸針二分灸三壯中風

中凡

上ト

齒痛

ニホ

ルイレキ

牛

頸

痛

ルイレキ

○ニハ

●合谷二穴手大指と食指との岐骨の
間と陷中推む肘ふくま灸三壯

ニト

陽谿二穴腕中の上側兩筋の間陷の中
直に合谷の通の腕の屈伸とる節あり
狂言と笑の瘧疾と胸滿息あり
寒咳と耳鳴と肘痛痲疥と

耳ナリ

咳

耳ナリ

九

二子

虫齒

喘目

冷下

二子

喘中凡

文

大使血

中凡

子三

●二間二穴 手指の本節の後内側

●二呼灸三壯 舌吐

●下廉二穴 偏歴のこ液り曲池の下四寸

●針五分留ること二呼灸三壯 世瀉方瘵

●針五分留ること六呼灸三壯 喉痺 頰腫

●針三分留ること六呼灸三壯 喉痺 頰腫

●針二分留ること六呼灸三壯 喉痺 頰腫

●針一分留ること二呼灸三壯 胸中の氣を喘効をこり 熱病

●針一分留ること二呼灸三壯 汗出と耳鳴をこり 頰をこり

●針一分留ること二呼灸三壯 肩背鉄盆をこり 目青をこり

●針一分留ること二呼灸三壯 目左をこり 目右をこり

二間 口齒目

元

二子

喘咳

齒目

●二間二穴 手の食指の本節の前爪の方

●商陽二穴 手の食指の内大指の爪甲の

●角二分留ること去る 針一分留ること二呼灸

●三壯 胸中の氣を喘効をこり 熱病

●汗出と耳鳴をこり 頰をこり

●肩背鉄盆をこり 目青をこり

●目左をこり 目右をこり

目八車風中
セナシ

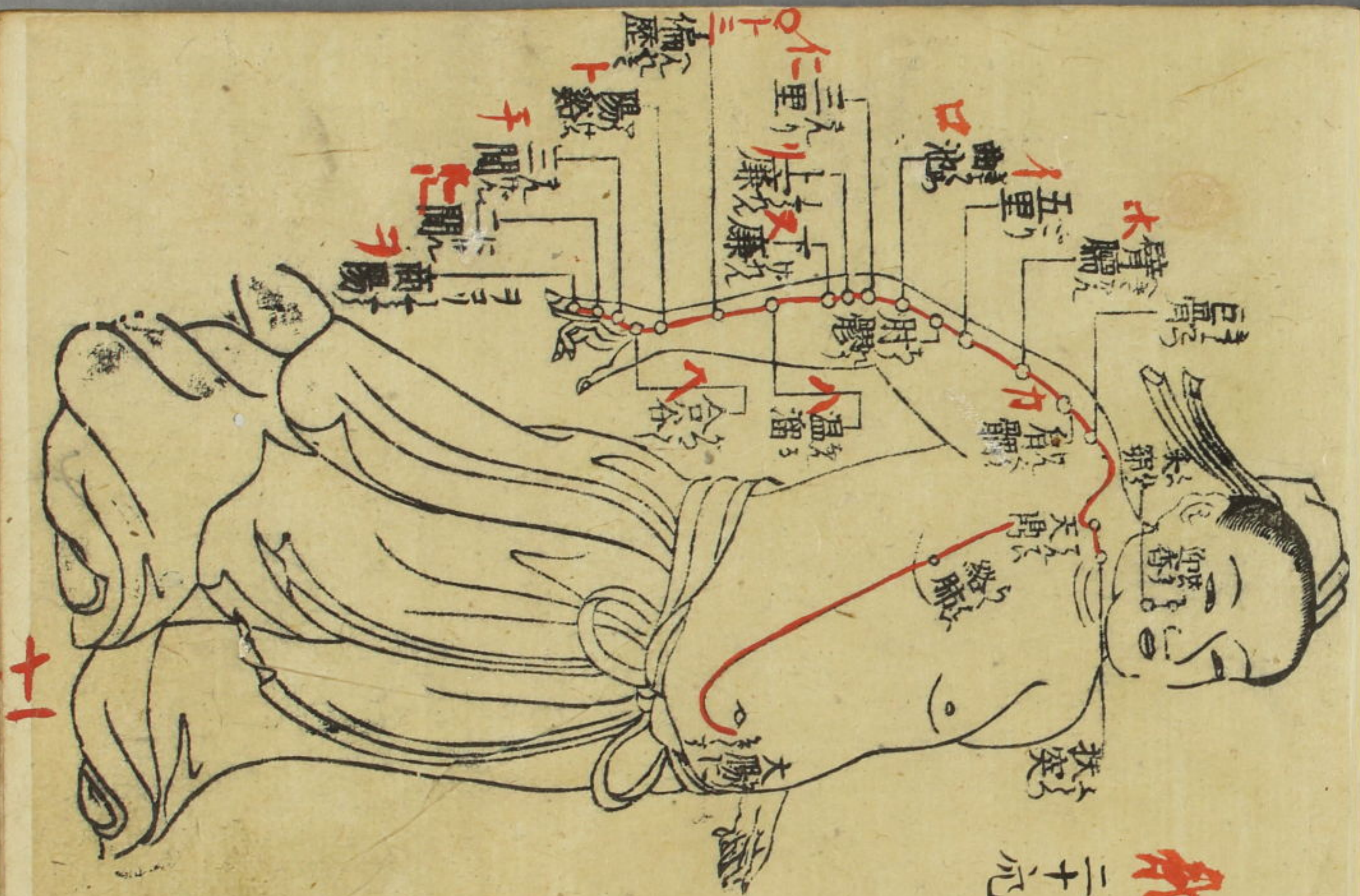
二六
子
虫
口
中
凡

●天膈二穴風池の後(項)の堅の髪
針三分留ると六脈傷寒大は渴と發
熱惡寒づく背強り汗多し寒熱瘧り
と多し目くく虫齒耳聾喉痺面これ
言と能と口噤と中風とびりせ痲疥
偏正のつう腰背のつう小兒乳鵝と治

●合谷二穴手大指と食指との岐骨の
間と陷中推し肘小こころの処灸二壯
針三分留ると六呼傷寒大は渴と發
熱惡寒づく背強り汗多し寒熱瘧り
と多し目くく虫齒耳聾喉痺面これ
言と能と口噤と中風とびりせ痲疥
偏正のつう腰背のつう小兒乳鵝と治

手の陽明大腸經之圖

新 二十元



十一

三本
ヨダシ
チヨマ
みツ病
ハ虫

●厲兌三穴足の次指の外側から爪甲の角を
去り二分針一分灸三壯尸厥口噤心
腹脹滿水腫熱病汗出と寒瘧不食好
針灸調 ○百八
飢餓の上齒の悪寒鼻赤
狂走黃疸から口赤面腫
膝節踏むれい小便黄と治と

三ツ
ウキ
病

●陷谷二穴足の次指外の間本節の後
隙中内庭と去ると二寸灸三壯針五分
留くと七呼面浮水腫腸鳴腹い
熱病汗出と惡寒瘧と治と

三ツ
目

●頭維二穴額の角の髮際より入と四
分神庭の左右へ各四寸五分針五分
三分禁灸頭痛目脱と治と
針灸調 ○七十一
風物と見と明あつと治と

三ツ
カツケ
牛足
ゼンソク

●巨虚上廉二穴三里の下三寸針三分八分
氣と得て即瀉と灸三壯七壯藏氣不
足備風脚氣腰腿手足不仁骨髓冷
のし大腸冷食化と痰洩勞瘵臍腹
腸痛腸鳴氣上と喘息傷寒の胃熱と

三ツ
嘔吐吐血

●滑肉門二穴大乙の下一寸灸五壯針八
分癲狂嘔逆吐血重舌と治と

三ツ
冷足痺

●條口二穴上廉の下二寸針五分八分灸
三壯寒濕と感と足麻痺腫と治と

〇三六 中丸

●頰車二穴耳の下曲頰の骨の端を正
前に引開き陷しめり口を閉じ骨蓋を
處針三四分灸三壯中風牙疔の
口瘡を言ふ牙痛頰腫眼口喎斜と

三六 口

●大迎二穴耳の下曲りたる頰の角より
一寸三分前より動脈の骨のまわりの
動ろくわのぐくつものめ也灸三壯針三
分留ると七呼口瘡の開る頰腫牙疼

三六 水腫

●鉄盒二穴天突の左右へ各四寸肩の下
横骨の上廉よりの中灸三壯針二分
留ると七呼ふく刺へる水腫積聚
瘰癧喘急汗出寒熱鉄盒乃

三六 熱

●承滿二穴ふらふの下一寸上腕の兩傍
各一寸針三分灸三壯五壯腸鳴腹
より上氣喘逆飲食下る肩息唾血と

三六 気喘 食下

三六 肩肘

●偏歴二穴陽谿の上の方三寸にあり此方
以下の穴陽谿と曲池と目的ありて
灸三分留ると七呼灸三壯肩肘
腕の痛と血瘧とんんんん耳
より小便とびと治と

千金方 三六

腹痛 血塊 月水 帶下

三六 咽腫

●天樞二穴臍の左右へ一寸灸五壯
より百壯より千金方に曰く針とへる
と泄瀉痢病不食水腫腹脹腸鳴
上氣胸小沖と久積冷氣臍腹痛
嘔吐霍乱瘧り傷寒水と飲て腹より
女の血塊漏下帶下月水調と主る
●氣舍二穴天突の左右へ各一寸五分
灸五壯針三分上氣肩腫と頰と
能どと咽腫飲食下らるる

三ノ又

心皆嗽

嘔食腹

喘積

利食

身腫

痰ヲコリ

疝隄

九小腹

腰子ヲ

マテトス

腰膝冷

主寒疝

三ヨカツ

三ノ上六寸

不容二穴 幽門の傍ら相去一寸五分 灸三壯五壯針五分八分 腹脹ら疝入る 唾血肩脇の心背の熱すれ肩小

引て痛嗽喘疝瘕不食腹鳴嘔吐

関門二穴 梁門の下二寸針八分灸五壯

喘滿積氣腸鳴泄利不食腹中

氣より臍より痛身腫

痰癧振寒遺溺とる治と

氣衝天兩股の付根動脈ある所也

俗云云の処をくると圓小骨の

一寸上あり禁針灸三壯七壯腹ら

疝氣隄丸小腹腰の婦人子を

胎衣下らさる治と

陰市二穴 膝上三寸即二里の通り也

針三分禁灸腰脚膝冷痿痺寒

亦小腹の脹滿消渴と治と

三ノカ

水腫

腹痛

熱ヲコリ

三ノタ

腰足

小腹痛

傷寒

ヲコリ

食リトヨ

牛足冷

咽齒

三ノ

太乙二穴 關門の平一寸灸五壯針二

分心煩舌狂乱舌と出と治と

陷谷二穴 足の次指外の間本節の後

陷中内庭と去と二寸灸三壯針五分

留し七呼面浮水腫腸鳴腹

熱病汗出と惡寒瘧と治と

脾関二穴 膝の上一尺二寸跪坐とれ

股の附根のどと下は横文ありその

中に点と針六分灸三壯腰痛足膝

不仁痿らひ小腹痛引のい治

痛此より以下十四穴足陽明胃經あり

内庭二穴 足次指の外間陷との中

灸三壯針三分留ると十呼傷寒汗

出と瘡疾不食赤白痢四肢厥冷腹

三ツ

●衝陽二穴足の跗上五寸陷谷と去こと三寸次指と中指との間通り足腕の方

中凡

へ撫上せ足跗の中より指の止る処

傷寒

灸三壯針三分留ると十呼り刺て

キチガイ

血出まへ死と中風口眼ゆと足收らば

跗腫ゆと寒熱し腹堅大と不食し

三ツ

大小便

●豐隆二穴外踝の上八寸下廉の傍と

牛足腫

筋と隔く筋の外廉陷の中灸三壯七壯針三分厥逆大小便と胸腹腿

三ツ

足冷十五

●梁丘二穴陰市の下二寸兩筋の間也灸三壯針三分五分腰脚冷痺痛と

脇積

食下り

●梁門二穴承滿の下二寸針二分灸五壯腸下積氣不食滑泄完穀化せざる治と

〇三ツ

●三里二穴膝眼の下三寸胛骨の外大筋

胃冷

の中灸三壯七壯あつひの二百より五百壯まで針五分八分留ると十呼瀉

心腹脹

と七吸あつひの一寸留ると一呼胃中

食

寒心腹脹満小腹脹堅く腸鳴臑氣

心痛

虚し眞氣不足し腹のし不食心悶

喘

心痛逆氣上り攻喘息腰のしんへん

復冷

四肢滿膝筋のし脚氣目明あつと産

後血暈傷寒惡寒熱病汗出と嘔吐口

苦發熱支折口噤領腫痛乳癰乳腫

こころ胃氣不足久泄利食化せと苦

飢腹熱し身煩狂言とらふまの

十ガク
タケノゴト
脈長シテ
身熱シ
ハナカワイ
目イタミ
フスコト
耳ナル

足陽明の脈、鼻の交頰中、起ち下て鼻の外へ循て上齒の中に入り、還出て口を挾み、唇を環り下て、兼漿に交る。却て頤後下廉へ循り、大迎へ出て頰車へ循り、耳前に上り、客主人へとどき、髪際をめぐり、額顛へ至る。其支の別は、大迎の前より人迎へ下り、喉嚨へ循り、缺盆に入り、膈へ下り、胃に屬し、脾と絡ふ。其直行は、缺盆より乳の内廉へ下り、下へ循り、挟て氣衝の中へ入る。一の支は、胃の下口に起ち、腹中へ循り下て、氣衝の中へ至り、合ひ、髀關へ下て、膝膑へ入り、下て、筋の外廉へ循り、足跗へ下り、中指の外間へ入る。一支は、膝へ下て、三里に注ぎ

針灸調

四十四

附より、中指の外間へ入る。一支は、別々

● 出ら此經氣多く、血と多し、動どるとさへ、惡寒し、大伸し、顔黒く、人と火をわく、木の音を聞かざらざら、高さの上りて、歌ひ衣を棄て、走る生じ、所病の狂、瘡濕、汗出ら、口を唇裂、くぐれ、水腫ひ、糸々、股膝筋、足跗、中指へ入る。實とく、たへ、身前熱し、善飢、溺黄、多り、虚とく、たへ、身前寒、慄し、脹満と。

四ツ白
ヨド
ケ水
小人

● 隠白、二穴、足大指の外側、爪の生際、角と去し、韭菜やく、灸三壯、針一分三分留る。こと三呼、腹脹、喘滿して、臥と能らば、嘔吐、不食、胸熱し、暴泄、いあら、尸厥、足寒、婦人、月経止ど、小兒、慢驚、風客忤、治と。

三五、△上六寸
 期門二穴 不容の傍ら三寸五分又曰
 乳下直下二寸半下針四分灸五壯
 胸中煩熱實脈上下同清一嘔吐

霍乱洩利腹くく大あしと喘ぎ吐と
 能ど腸下積氣傷寒の心痛嘔酸不
 食々後に水と吐き胸脇支滿血塊口
 かわ消渴さんごの餘病尸厥傷寒り
 腹ら譫語寸脈微して緊ぢりもの
 又發熱惡寒一大小瀉と腹滿自汗
 小便利むら者又五六日譫語止る者
 婦人傷ん發熱惡寒經水なまき來り
 七八日熱除て脈遲身涼胸脇滿譫

血
 四又 西
 ●腹二穴 期門の下二寸腹の中行と去と
 四寸半針三分禁灸中寒食化はる大
 便に膿血とくすとつとせらる

手陽明大腸經ニ有ルラフニ知ルナリ

四イ ●肩髃二穴 肩のくま肩骨と臑骨の
 中凡ふひの臂と伸むねと肩端とくわひ
 骨イ穴あり針八分留ると二呼瀉る
 手足
 松ズと五吸或ハ一寸或ハ六分留ると六呼

灸七壯二七壯り中風あり四十九壯お
 りくとく風病筋骨力多灸せよ
 刺り肩臂の熱氣と瀉と中風手足り
 ありば幸急肩肘いと肩中熱し頭
 回らば風熱癰癤勞氣遺精をえ熱
 ありば手足熱と治と

四ロ ●大白二穴 足の五指の外側本節の後へ
 下に圓骨あり其骨の下白肉し赤

食腹
 瀉嘔
 腹痛
 腹一とさうくいし主とる
 十九

六六

法脾

積

胃痛

子ナリ

小人

六仁

ヲコリ

食

面

心イキ

六木

瀉心痛

六火

帶下

●商丘二穴足の内踝の下火一針足と

張挙げた跗骨の上は折目のつゝ其折め

のうら筋骨の間は点と針三分灸三壯

腸脹狐疝上下に走り小腹は引く

脾積舌の本強り胃脘は急痛

困るゝもの婦人子少く小兒慢驚風

●公孫二穴足の五指の本節のより一寸

とかりら天都の通り針四分灸三壯

寒瘧不食頭面を心とれをの咽

瀉る膽虚を治す

●腹結二穴腹裏の下四寸八分針七分灸

五壯救逆腹冷肝は泄瀉心痛を治

●血海二穴膝頭の内廉の上一寸五分

即ち陰陵泉の通りの上より針五分

灸三壯氣逆腹脹婦人の帶下を治す

六ト

腹冷

水腫

リニヨ

六子

熱病

牛足

冷

小入

六リ

小使

ヲホエ

ツ

●陰陵泉二穴膝の下内側から輔骨の

下陷する中足と伸てらる禁灸針五

分腹中冷でん腰の腫れ水腫小便通

せは淋病陰を治す

●漏谷二穴足の内踝の上六寸針三分

灸三壯腸鳴えん膝痺を治す

折目の頭は針三分灸三壯熱病汗出

ど眠らば身重く骨の傷寒手足

の胸腹を嘔吐する熱悶乱目

眩腰の胃痛蛇虫小兒の治

●箕門二穴内股の動脈の中腕坐す

此処の内起る魚腹のじ其肉の上大

筋の間即ち血海の上六寸灸三壯禁針

淋病小便覺と通るを治す

此より以下十二穴足大陸脾經あり

二十

吐利リソコ
モソシ
脈沈細
ノ下カワキ
ハラミナ
クエモクワ

足太陰脾の脈は、大指の端に起り、指の内側、白肉の際より、骨の後より、内踝の前廉に上り、腓内の上り、筋骨の後より、めぐる。厥陰の前に交り、出て上り、股の内廉より、めぐる。腹に入り、脾に屬し、胃より、膈に上り、咽と挾み、舌の本と連り、舌の下に散り、其支は胃より、まわって、膈に上り、心中に注ぐ。此經氣多く、血少し、是動多し、其舌本より、嘔吐し、胃腕の腹より、善噫し、後と氣とを得る。其快し、身體かおこし、生じろ所の病は、舌の本より、體動揺り、めぐる。不食、煩心、心下つ、寒瘧、澹痰、洩水、下黄、疸、夜不寐、強立、股膝の内腫、足の五指あり。

脾の營管と藏し、意と舎と、肌肉と勞倦と、濕と、主る中央の土に屬し、長夏を旺し、其脈緩なり、外候は唇口あり、在り、其聲ハ歌、その臭ハ香し、其味ハ甘し、其液ハ涎、その色ハ黄、その志ハ思、その經ハ足太陰、その府ハ胃、その變動ハ噦、その積ハ痞、氣胃管に在り、覆大少と、盤のじ、脾氣盛ると、腹痛と、腹脹、渡利と、身重く、苦、飢足、癢、收ら、行と、其善瘻、脚、下痛、宜く、これ瀉と、平、不足と、と、急、愒、と、目、と、嗜、四肢用られ

リニビヨ
 少府二穴 掌の内小指と無名指と
 かねて兩指の頭のわらう間を針二分
 灸三壯七壯 心煩少氣人と畏れ手中
 熱し肘と心脇牽り胸の久瘡
 陰うり小便通でさう治と

女イ

肩肘

痛

女ロ

手足冷

心脇痛

嘔

女ハ

ヲコリ

心痛

牛足冷

吐血

心積

○テニカニ

コエ山

●青靈二穴 直に少海の上三寸肘と伸拳
 とと禁針灸三壯七壯 目黄ぶら

●極泉二穴 肘と脇と下付れ肘と肩
 二の折る横文のよりらす胸の方へ
 推入して筋肉の間動脈のわらう也
 針三分灸七壯 肘手足冷あがり心脇い
 る煩と乾嘔と悲と多く發ち治と

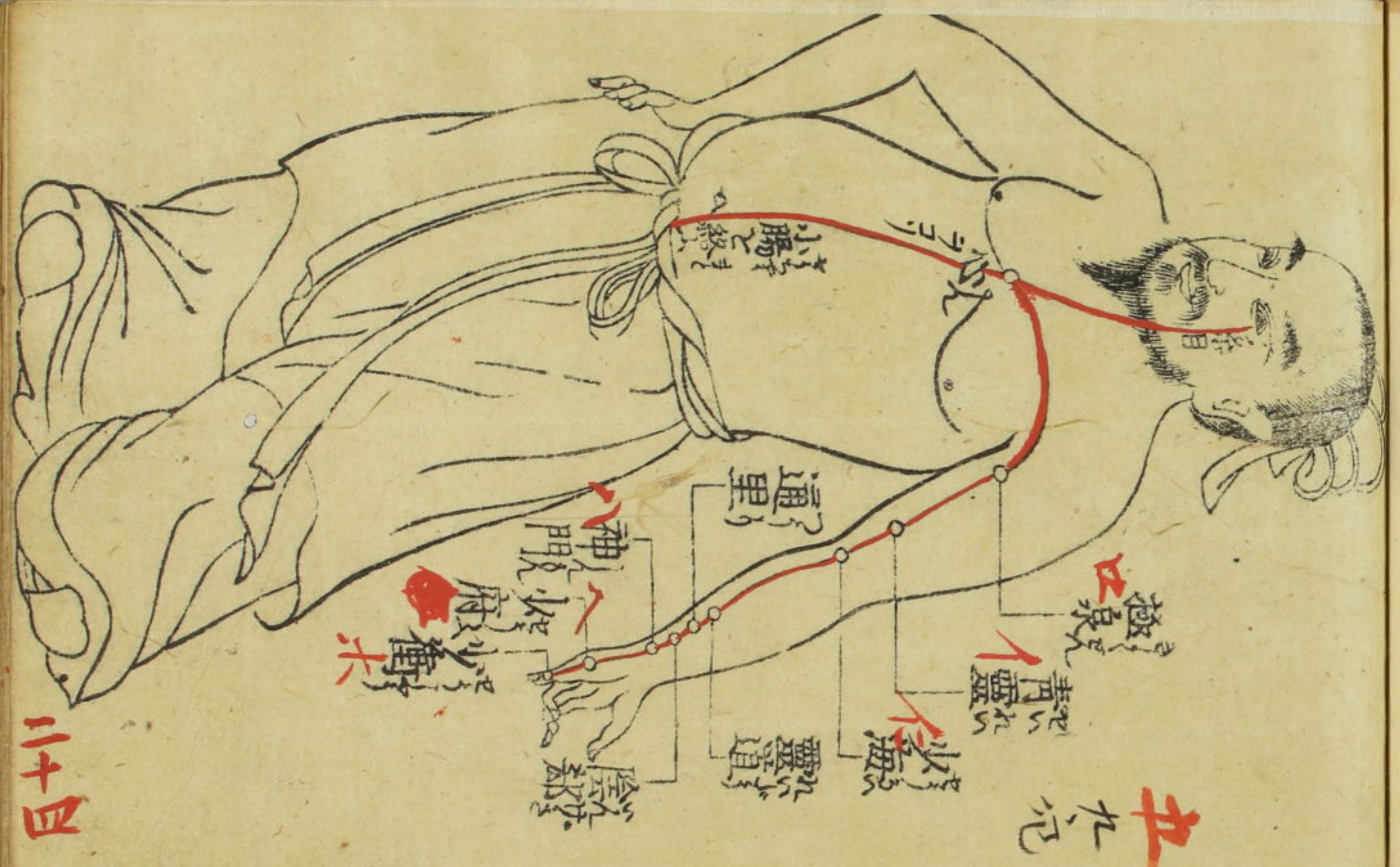
●神門二穴 小指の後の通り腕の横
 文の中にある則掌の後の尖骨の下手
 外踝の上兩骨の間拳と握り力の陥
 処より針三分留ると七呼灸七壯
 瘡り心煩と水と好と不食心痛手肘
 の掌熱と目黄と脇の嘔血吐血
 上氣音出と健忘心積とんん治と

二十三

○**火仁**
 ●火海二穴肘とわめて横文の下とぐと
 小指のとびり也横文の上の尖り曲池
 下の尖り火海あり針三分留ると三
 呼瀉五吸禁灸齒疼目赤の發狂
 嘔吐項こりり肘挛り脇下のこり手足の
 ショクリ ぐと腦風つこり心痛呃逆のこり治

○**火木**
 ●火府二穴掌の内小指と無名指とと
 かめて兩指の頭のわたり間より針二分
 灸三壯七壯心煩火氣入と畏と手中
 熱一肘とびり脇挛り胸のこり久瘡
 陰のこり小便通でぶくと治と

牛熱
 心煩
 陰のこり
 小便



火陰心經之圖
 南洪

ホソクニシノ右レカトヲセバナキガゴトシ
大ニシヤワ
カツスルワ
シメカワキテ
クチカワキ

脈微緩ニテ
手少陰の脈は心中に起り心系に屬し
膈より下り小腸と絡ふ其支は心系より

針灸調

四十五

上て咽と挾目と系其直多るものハ
心系より却て肺に上り腋の下に出
下り膈内後廉より太陰心主の後
小行は肘の内廉に下り臂の内後廉
より掌の後兌骨の端に抵り掌の
内廉に入り小指の内より其端に
つづ此經氣血より多し是動多るを
口渴嗌干心痛を生じ所病は目
黄腸鳴と膈臂の内の後廉に厥
とれは掌の中熱して心

心脈ノ藏レテ神ノ舎ト血脉ト暑
主る南の方君火ノ屬一夏ノ旺
其脈鉤のどくみと洪なり外
候は舌のり其聲ハ笑その臭は焦
その味ハ苦一その液ハ汗その色赤
其志ハ喜ぶ其經ハ手少陰その府ハ
小腸その變動ハ憂その積ハ伏梁臂の
如く臍より心氣盛あり

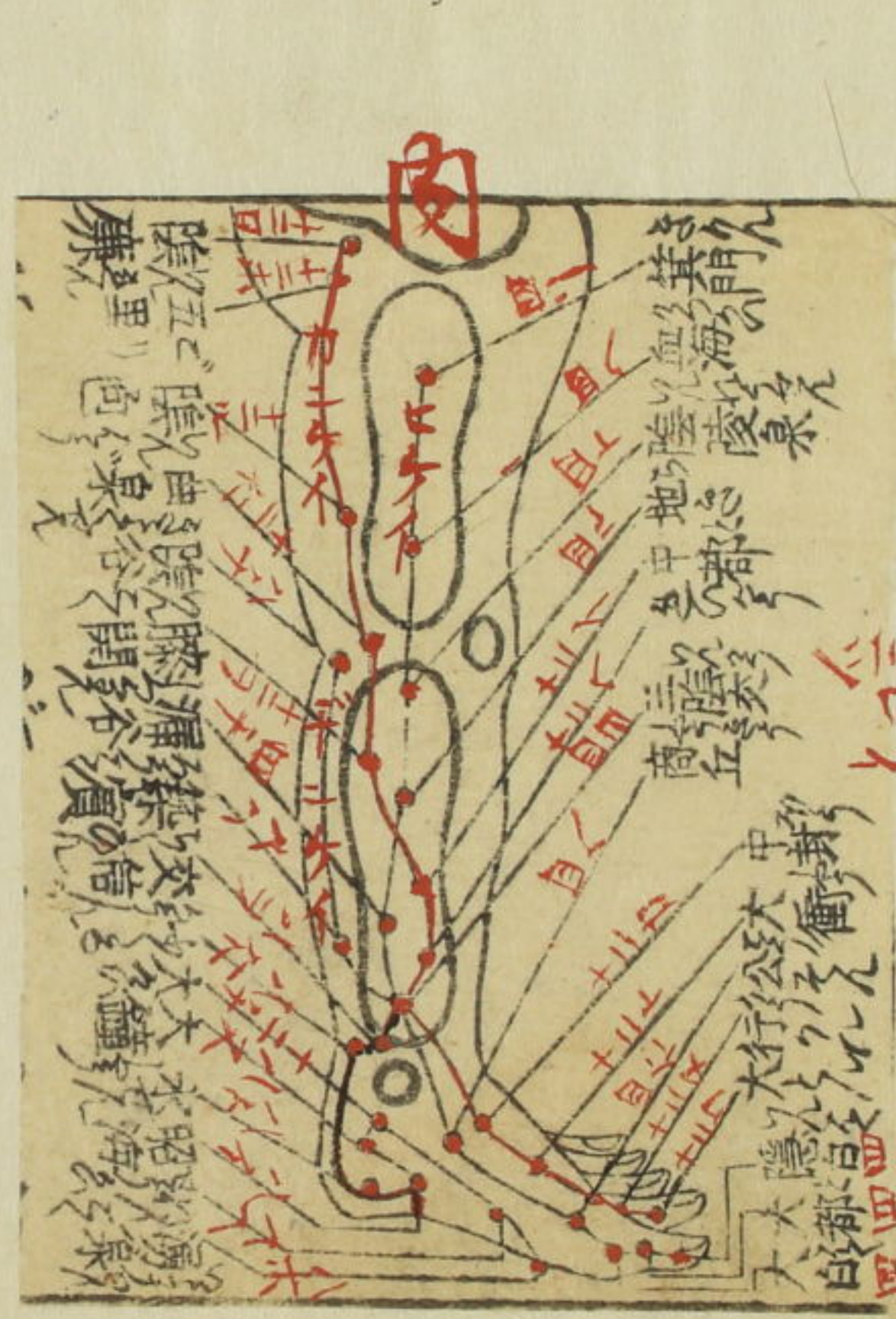
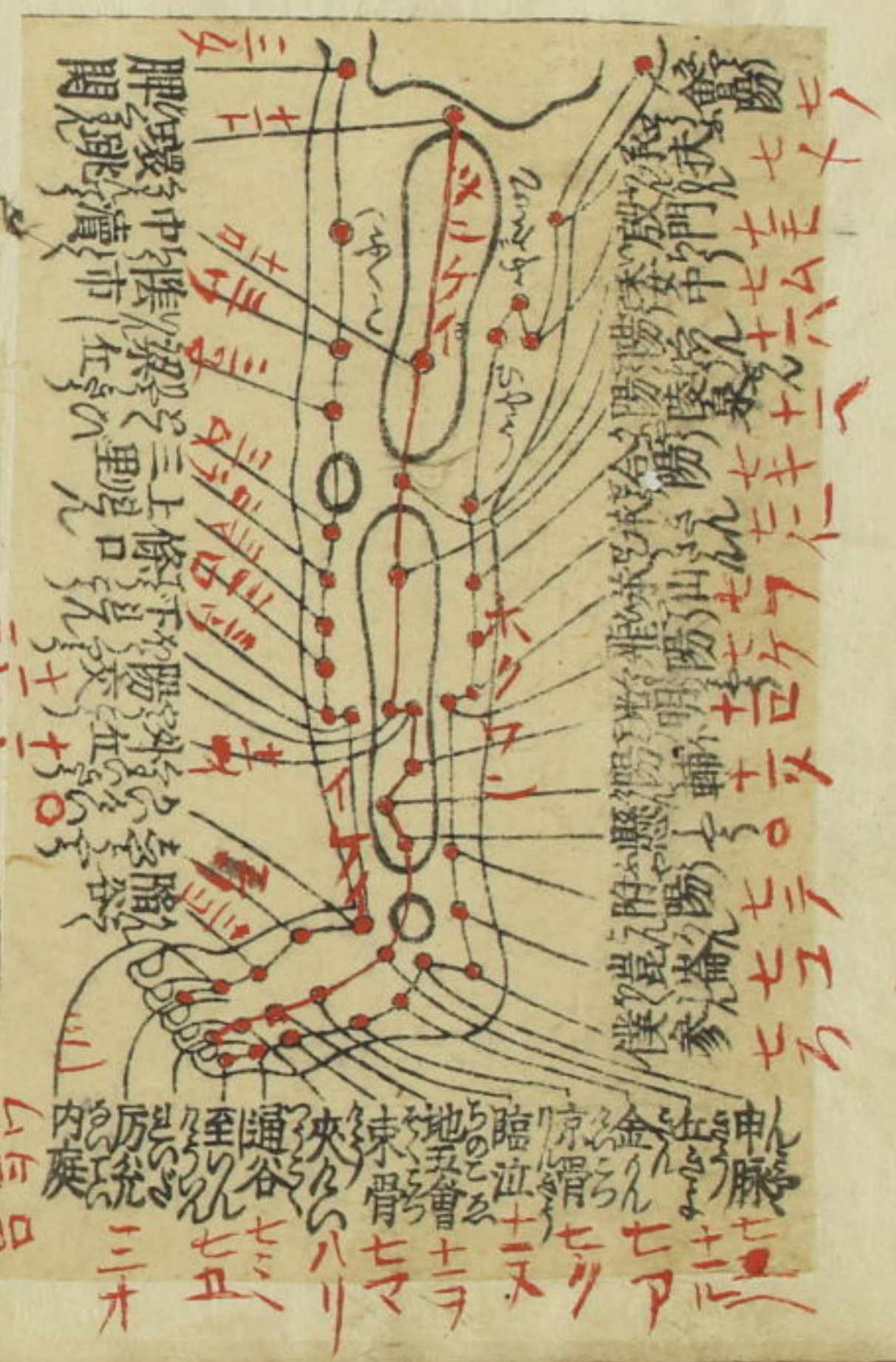
針灸調

十四

胸内痛脇支滿脇下痛膺背
膺脾の間より兩臂の内痛喜で笑
と休と宜とれと瀉と不足と
とんば胸腹大脇下と腰背と相引
痛は怔忡驚悸恍惚顔色少く舌
本強り善く憂と宜とれと補ふ

鳴と食少く食化せず嘔逆腹脹腸
鳴とろくろく補ふ

二十六



六イ

熱病
ヨコリ
咳血
子ナキ
ヲ治

六ロ

肘痛
痿

六ハ

目テカニ
耳齒
子ナス

●前谷二穴 手小指の外側から小指の
本節のより小指の拳と握ると小指の
本節の前後より折目出る前のありある
前谷後の折目後給より針一分留る
と三呼灸一廿三壯 熱病汗出と瘧り
てんん耳鳴と頸項頰とれ鼻塞
咳嗽吐血肘の産後乳ありと治と

●臑會二穴 肩の前の廉肩の頭と下る
と三寸天井と目的小と灸五壯七壯
針五分七分留ると三呼肘痛と
カク瘰癧と

●陽谷二穴 手外側の側から小指の後外踝
の下腕の文の中灸三壯針二分留と
二三呼 目眩とんん腸と頸頰腫
耳と虫牙小兒木舌乳と吞と

二六

六八

●後穀二穴前谷の後より針一分留
るく二呼灸一壯治証を前谷に同一

六八

●聽宮二穴耳の前より圓くひつて尖あり

針灸調

〇七十五

テニカニ
耳

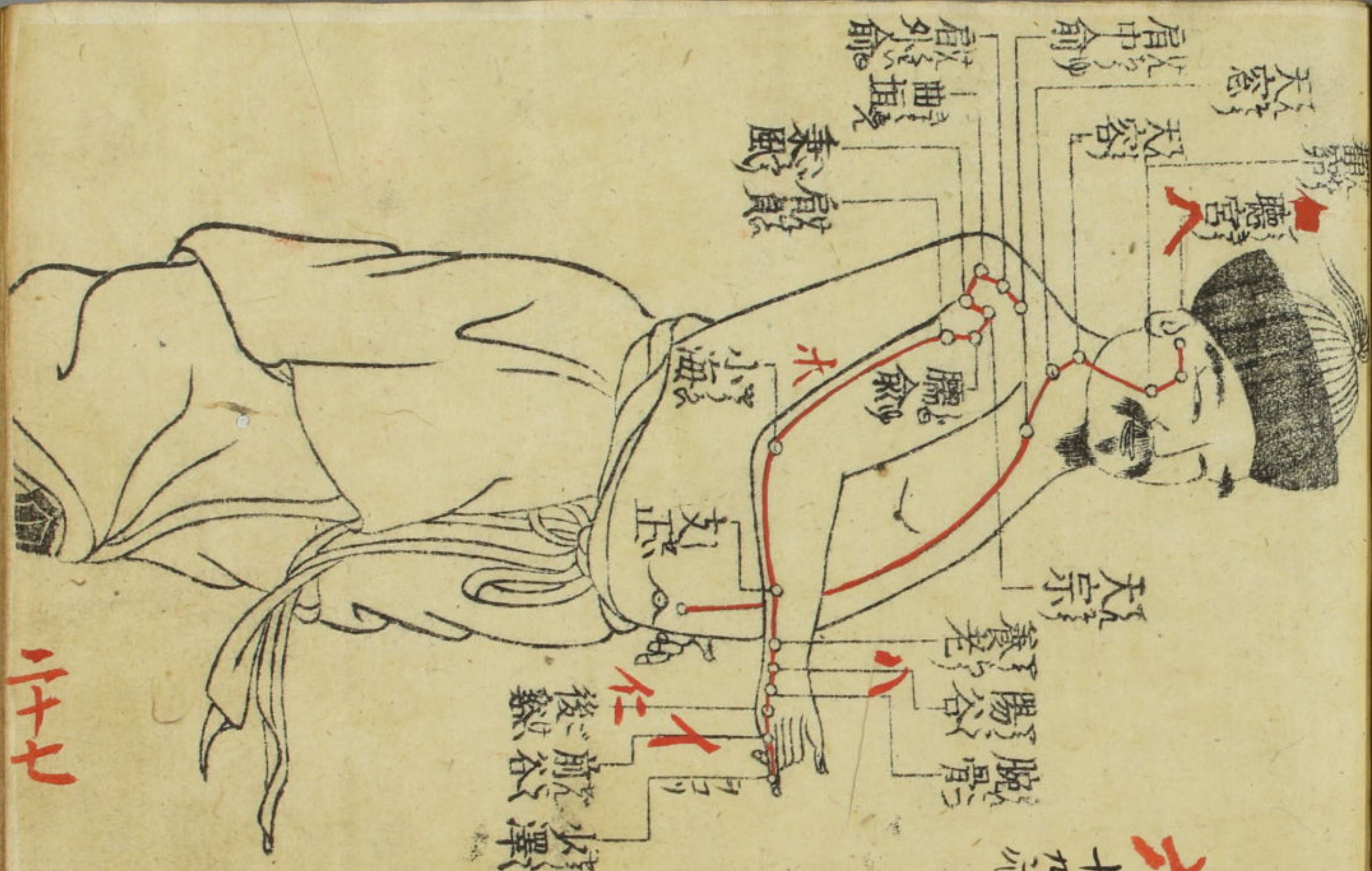
是と珠子との其前に小豆と容る程
の隔りの所針三分灸三壯癩人
心腹つゝ音不出聾耳耳鳴耳塞治

ハ
目
心
ツ
ホホ

●少海二穴肘のかげの横文の下らぐま
小指のとけり也横文の上の小大の曲池
下の尖の少海より針三分留るく二
呼瀉五吸禁灸齒疼と目より發狂
嘔吐項こり肘奪り脇下の手足の
うらと腦風つゝ心痛喉逆るの治

手の太陽小腸經之圖

六十九



○七六 神堂二穴五推の下左右へ三寸づ開
腰背 針三分五分灸五壯三壯腰背強り惡
寒發熱腹痛滿氣逆上攻時は饑ると

○七五 隔関二穴七推の下左右へ三寸づ開
皆強の中針五分灸三壯背痛惡寒脊
強り不食多り涎唾多く胸りど
大小 大便調り小便黄多りと治と

○七四 大推一穴脊の二の推の上膈の中針
五分留ると三呼瀉五吸灸壯五
嘔吐 十壯肺脹脇ら嘔吐上氣五勞七傷
温ヨリ 力多温瘧肩背ひさつ頭項強りて
肩背 顧ると得と風勞食氣骨熱齒燥と
頭強 治と傷寒太陽と少陽との併病頭項
目マイ 強り眩暈心下つる刺へ

○七三 秩邊二穴二十推の下左右へ三寸づ針
五勞 三分五分灸三壯五勞小便赤腰痛治
膝痛

○七二 天柱二穴項の後の髮際の中行より
五吸 左右へ一寸三分づ開して大筋の外廉
頭凡 膈の中針二分五分留ると三呼して瀉
腦痛 五吸頭風鼻香臭と聞と頭ら
中凡 旋り腦痛重く頂の項強ると主とら

○七一 千金曰中風心急心愈灸とる
と百壯中風胃絶てん狂走と主と
心愈二穴五推の下左右へ一寸五分づ
針三分留ると七呼氣と得て即瀉と
刺て心の中を臆して即死 禁灸

○七〇 厥陰俞二穴四推の下左右へ一寸五分づ
針三分灸七壯效逆牙痛心と胸滿
嘔吐煩悶と主と 即ち心包絡の俞とら

○六九 心包絡の俞とら

○六八 心包絡の俞とら

○六七 心包絡の俞とら

○七六 神堂二穴五推の下左右へ三寸づ開

○七五 隔関二穴七推の下左右へ三寸づ開

○七四 大推一穴脊の二の推の上膈の中針

○七三 秩邊二穴二十推の下左右へ三寸づ針

○七二 天柱二穴項の後の髮際の中行より

○七一 千金曰中風心急心愈灸とる

○七〇 厥陰俞二穴四推の下左右へ一寸五分づ

七ヨ ●大腸俞二穴十六推の下左右二寸五

大腸 分づく灸三壯針三分留ると六呼中
病 燥脊強り腰痛腹鳴り多

食しく身瘦大小便結洩利白痢腸癰

七タ ●小腸俞二穴十八推の下左右二寸五分

小腸 病 づ灸三壯針三分留ると六呼中暑小
便赤く淋瀝遺溺小腹脹滿疝痛

七シ ●肺俞二穴三推の下兩旁二寸五分

肺病 針三分五分留ると七呼氣と得て
とありら瀉と刺く肺に中ま効て

上気 三日小死と灸百壯五十壯勞瘵口舌
腰脊 乾さ上気腰脊強い寒熱氣短喘

嘔吐 瀉虚煩肺痿咳嗽肉の皮癢嘔吐
不食狂走り背僂と治と太陽と少陽

喘 与併病頭項強いと或ハ眩暈心下痞
硬又太陽の經の肺俞肝俞と刺へ

喘 硬又太陽の經の肺俞肝俞と刺へ

小腸

泄痢膿血五色脚くれ五痔づら虚乏
津液とくく消渴口からと帶下と治と

七ソ ●腎俞二穴脊の十四推の下左右二寸

腎病 五分づ臍と平灸三壯針三分留と
七呼り刺て腎に中ま嚏て六日に

死と五勞七傷虚しく羸瘦耳聾と
下部冷淋濁目暗く溺血遺精腰膝

脚の消渴身熱振寒多食
てと瘦面黄黒く腸鳴四肢と洞

洩食化セ身浮腫ると治と

七ツ ●膽俞二穴十推の下兩旁各一寸五分

針三分五分留ると七呼灸三壯五壯
刺く膽小中ま一日に死と頭痛振寒

汗出と腫と腫心腹脹口苦く舌かりと
咽痛乾さ嘔吐骨蒸勞熱不食目黄と治

四花の上二穴八兩俞下二穴八膽俞あり

三十一

七子 魂門二穴九推の下左右へ三寸づつ開き
背心 針五分灸三壯背より心に引く
厥腹鳴大小便そののなるを治す

七十九 膀胱俞二穴十九推の下两旁へ一寸五
分灸灸三壯七壯針三分留ると六呼
風勞脊強リ小便赤黄遺溺陰瘡少
氣脛寒拘急腹滿大便くく洩利腹
の脚膝力なく女子瘕聚を治す

七十八 浮郄二穴委陽の上一寸針五分灸
三壯霍乱轉筋大小便熱して
脛の外に腫解不仁を治す

七十七 委陽二穴承扶の下二尺六寸脛中の
横文の外側の頭兩筋の間針七分灸
三壯腰脊の陰中に引小便通す
小便不通を治す

七十六 脾俞二穴十一推の下两旁へ相去一寸
脾病寸五分針三分留ると七呼灸三壯五壯
積脇 刺く脾に中ねば吞酸して五日に死す
多食して身瘦臑さ汁吐きく
積聚脇下より洩利痰瘧寒熱水腫
氣脹脊に引く 黃疸不食を治す

七十五 志室二穴十四推の下左右へ三寸づつ開
陰腫 針五分灸三壯七壯陰腫の腰背
りすく食化を遺精淋病吐逆兩乃
溺食を引牽り霍乱を治す

七十四 會陽二穴龍尾尻骨と兩旁の陷
針八分灸五壯腹寒熱氣寒氣泄瀉
久痔下血陽氣虛乏陰汗を治す
是より以下十九穴は足太陽膀胱經也

○七才

委中二穴足脛の横文の中央陷を中

腰痛

針五分留ると七呼委中の大脉刺

膝痛

しつれ灸三壯腰脊膝の遺溺

熱病

小腹の身痺と脾樞痛と傷寒四肢熱熱病汗出と大風

七才

京骨二穴足の外側大骨の下小指の

頭腰

本節の後陷の中針三分留ると

背足

七呼灸五壯七壯頭痛頸項股背足

目食

筋の筋牽り目の内眥赤く目赤

赤クガザル言

白翳目眩瘧り喜驚不食心痛

七才

風門二穴背の三推の下兩旁一寸五

胸背

分つ針五分三分留ると七呼灸五壯

嘔吐

癰疽身熱上氣々短く欬逆胸背痛

心熱

嘔吐傷寒頭項強り目瞑り胸熱治

七才

束骨二穴足の小指の外側本節の後

腰背

赤白肉の隙陷を中灸三壯針三分

頭耳

留ると三呼腰脊脚頭項の耳聾

目赤

惡寒目眩身熱肌肉動目背赤

瀉之痔

瀉之瀉世痔瘻をん癰疥治と

ヲコリ

飛揚二穴承山と相並ぶ承山八膈入

七才

中央通りの下飛揚外踝の後通り

上痔腫

目痛の上踝の上七寸の点灸三壯針三分

目赤

痔腫の腫れを體をり脚腸をん

ヲコリ

目眩目痛をん寒瘧治と

七才

承山二穴合陽の通り膈の内高起

右復

止る所の肉の分陷を中針七八分氣と

痔瘻

得て即瀉しを針と出と灸五壯

吐下

大便通セ痔を戰慄るの腫れ

食

霍乱轉筋不食傷寒の水結と治と

七フ ●崑崙二穴足の外踝の後へ踝の下跟骨の上の前め陥る中針二分五分留

痛と十呼灸三壯妊婦の禁腰尻足腫喘陰心頭肩背の目眩目痛をこり汗多し咳喘をから陰腫の胞衣小人下ら小兒の驚癇を治と

七エ ●至陰二穴足の小指の外側爪の生際

の角とさうと三分灸三壯針二分留ろと五呼寒瘧汗出と心煩足下熱し小便利や遺精目や翳を生し鼻塞り頭重く胸脇をいせ治

七セ ●附陽二穴飛揚の下四寸外踝の上三霍乱す筋骨の間針六分留ると七呼灸三壯五壯霍乱轉筋腰足痛頭重く寒熱あを治と

七ア ●金門二穴申脈の下一寸針二分灸三壯霍乱轉筋厥てん暴疝脚膝痛と身戦小兒口をり頭を揺り身及を治

七サ ●盲門二穴十三推の下左右三寸づ開右使針五分灸三壯ありの三十三壯心下をり大便を婦人の乳病を治と

七キ ●合陽二穴委中の下三寸針六分灸五寒壯腰脊をり腹を引く陰股熱疝疔瘦腫寒疝陰囊を崩漏帯下を

七エ ●三焦俞二穴十三推の下左右一寸五分積肩針三分五分留ると七呼灸三壯五壯皆腰積下を脹滿不食羸瘦傷寒頭痛吐逆頭痛肩背腰強り小便澀り泄注腹脹腸目マイ鳴り目眩頭痛を治と

三十二

七ト 腰脊引
痔瘻

●承扶二穴尻の下股上衛文正中針
七分灸三壯腰脊相引といふ久しき
痔瘻これ大便よく小便通せざる治

七ト 頭項胸
食化

●通谷二穴足の小指の外側から本節の
前陷の中灸三壯針二分留ると五
呼頭重めす項の胸滿食化と

七ト 腹食淋
大小使

●胞背二穴十九椎の下左右へ三寸づ
針五分灸三十五壯五十壯腰背の
腹脹食化と淋病大小便通せざる治

七ト 足

●申脉二穴外踝の下五分陷の中
針三分留ると七呼灸三壯風眩腰
足の冷痺勞極癩癰ひかる治と

七ト 目

●攢竹二穴兩眉の頭と毛の中へ入
の中禁灸針一分目らく涙出眼赤
腫く顔動し頬の戸厥

七ト 七任

●殷門二穴承扶の下六寸針七分禁灸
腰脊の伸屈をり外腿腫重と
持て瘀血の泄注と治と

七ト 七ト

●天柱二穴項の後の髮際の中行より
左右へ一寸三分づ開きて大筋の外廉
陷の中針二分五分留ると三呼と瀉
さるしく五吸頭風鼻香臭と聞と頭ら
旋り脳痛重く項の項強とまら

十一ト 目

●目窓二穴臨泣の後へ一寸針三分灸五
壯一切の眼病頭面浮腫つる寒熱

七レ

ヨリ

●竅陰二穴 各枕骨耳の後、完骨とて細長と骨あり其上の陷、耳の後手あり推動を空の中灸五壯り三壯針三四分、四支轉筋目の頭項領の、耳鳴舌本より血と出し骨勞癱瘓發厲手足煩熱汗出と舌強り脇痛と效逆さうの口苦さ治と

七子

●心俞二穴五推の下左右へ一寸五分針三分留ると七呼氣を得て即瀉と刺て心の中を臆して即死禁灸

千金曰中風心急心俞灸とる
と百世中風冒絶てん狂走とる

七セ

七カ

七ホ

七ホ

七イ

七ホ

七ホ

七ホ

●五處二穴曲差より後へ五分灸三五壯針三分留ると七呼脊を反張でん頭風めさひどつとる

●承光二穴曲差の後へ二寸針灸共忌

●通天二穴曲差より後へ二寸半百會の左右へ二寸半つひく灸三壯針三分留ると七呼癭瘤しから清潔と出し頭やつと項のむとま

●絡却二穴曲差の後へ五寸針三分留ると五呼灸三壯頭やつと耳あり腹より目の内障と生どるとま

●僕參二穴崑崙の下跟骨のまめ陷あり中針三分灸七壯足癱脚氣膝腫轉筋吐逆尸厥厥在言と治と

足すのクリケ
ヒダハシ・テンギン

七は
七は
七は

●曲差二穴 神庭の傍ら左右八寸半
づ前の髮際より五分上へあり針三分
灸三壯 目明めども鼻衄鼻瘡心煩
頭項の腫る腫ると治せ

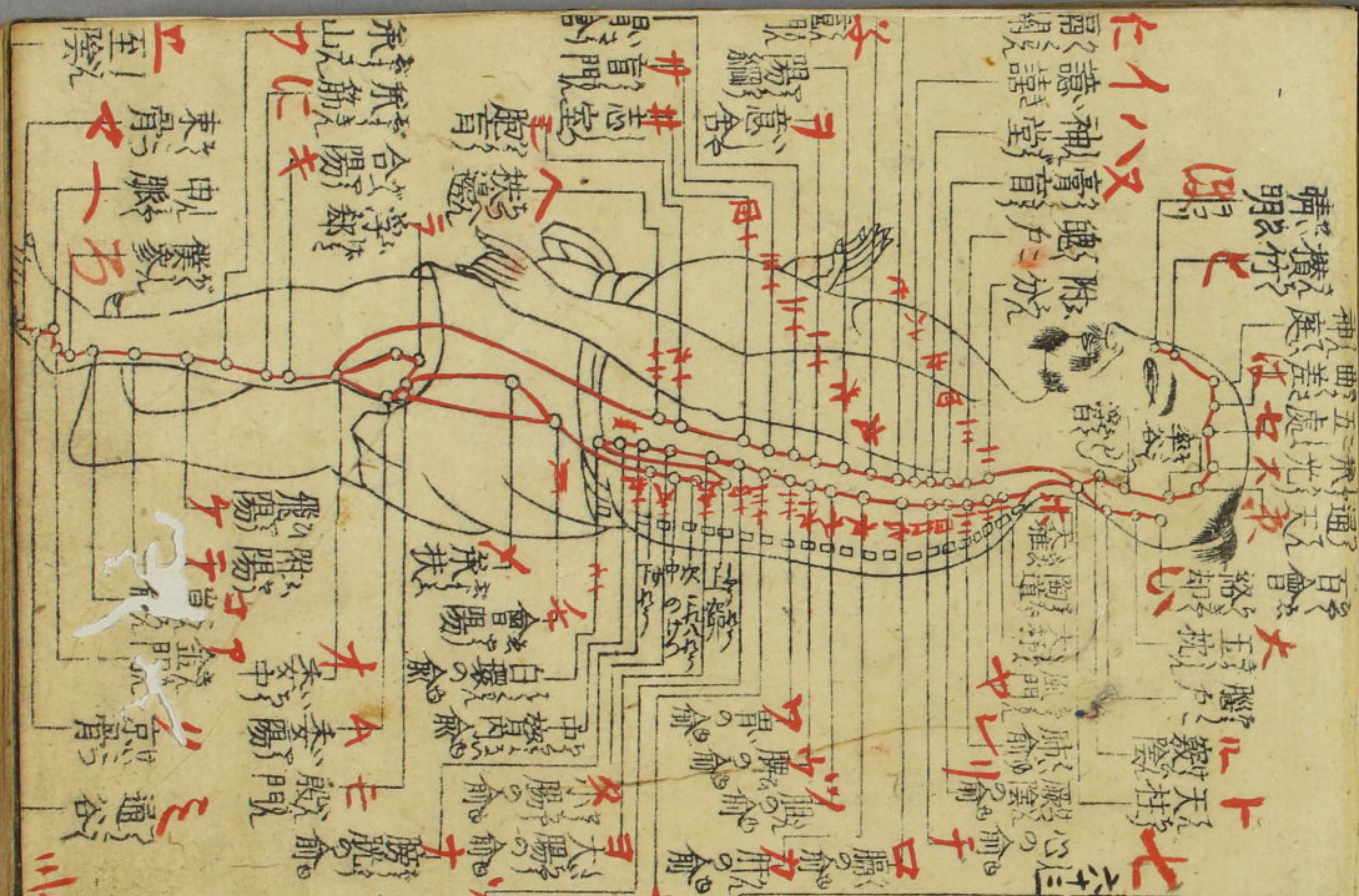
七は
七は

●承筋二穴 膈腸の中央の陷中 脛の後
合陽の二穴の足跟より七寸上灸三壯
禁針 腰背の痠痺 膈腸の痠痛
血霍乱轉筋と治せ

七は
七は

●睛明二穴 目の内眥二分を 外目と
鼻との間隔を針一分 禁灸 目遠く
見不能と惡風淚出 腎肉省目と治せ
●陽白二穴 瞳子の通り 眉毛の上毛際
より一寸上 針三分灸三壯 瞳子痒く
痛むと視目眩と眼昏とと治せ

足の太陽膀胱經之圖



脈水ミウカベツ木ノゴトニ
 足太陽膀胱の脈ハ口の内背に起りて
 額の上り巔上より其支の巔より耳
 の上角に至るその直行の巔より入
 コシ セナ エワル

腦と絡の還て出くつれて項より下
 肩膊の内を循り脊と挟み腰中に抵
 り入る腎とめぐる腎とまゝの膀胱が
 屬と一の支の腰中より下て腎と貫
 る。胛中に入る一支の膊内の左右より別
 して下て胛とつゝある脊の内と挟み脾
 樞と過ぐ脾外の後よりめぐる下て胛
 中の合の下て膈の内とつゝめく外踝
 の後に出て京骨とめぐる小指の外側
 の端より此經血多く氣少し是
 動じるとは頭痛目眩に似て項拔
 ぐとく腰折に似たり腿とつゝあり
 脊の中央より仰り咽びとつゝあり如
 く膈裂とつゝ是筋とつゝ生とる

所の病ハ痔瘡狂癩イラ顛頂痛
 と目黄と涙出るとら項せか腰尻
 胸膈脚とあつゝ小指りらありれを

- | | | | |
|------|-----|------|-----|
| テイゾ | 四 | ハイケイ | 六 |
| カシラツ | 八 | 大腸 | 十一 |
| イケイ | 十七 | ヒケイ | 二十一 |
| 心ケイ | 二十四 | 足ツ | 二十六 |
| 小腸 | 二十七 | ホクワ | 三十五 |
| 心 | 三十四 | サシヨ | 四十四 |
| 心口 | 四十二 | カシケイ | 五十二 |
| カシケイ | 五十八 | | |

八子
 幽門二穴 臍の上六寸 巨闕の左右
 各五分 一日す
 針一寸灸五壯
 小腹痛 滿涎沫 嘔吐
 不食 欬逆 健忘 膿血
 目赤

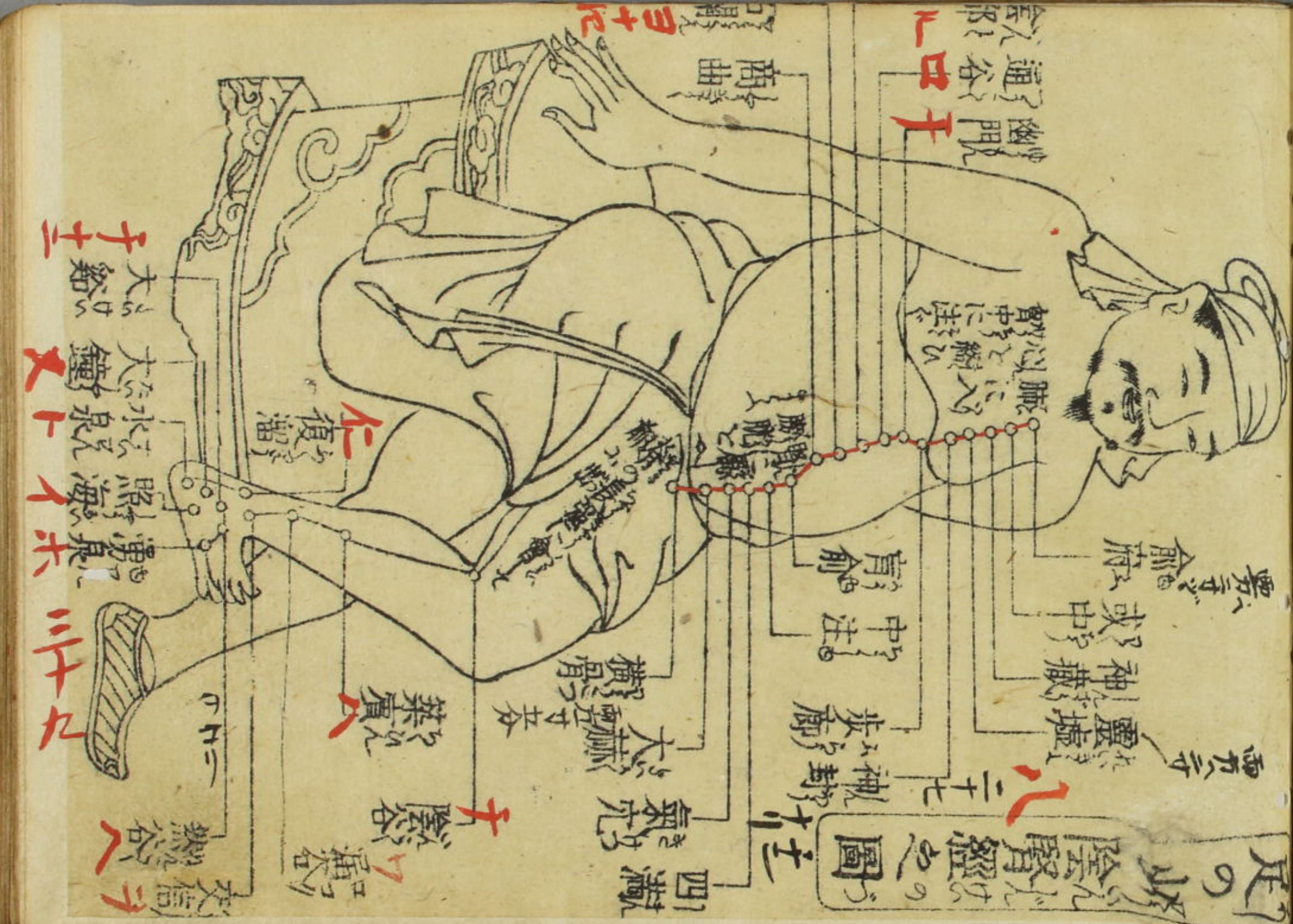
ハリ
 夾谿二穴 足の小指の次指の岐骨の
 間本節のまへ 陷の中 針三分 留三
 呼灸三壯 胸脇支滿 寒熱 傷寒 熱
 病汗出 目赤 外眦赤 目眩 頰頰腫
 耳聾 胸中の痛 常の処

目
 痛
 痛常の処

ハヌ
 大鐘二穴 内踝の後 跟骨の上 廉跟
 と 踝との中央 灸二壯 針二分
 留七呼 嘔吐 せん

ハル
 疾都二穴 通谷の下 一寸 針二分 灸三壯
 心清逆氣 腸鳴 脹目赤

足の陰腎經之圖



足少陰腎の脈は小指の下に起り、斜に
足心より趣く然谷の下に出内踝の後
とめり別して跟中に入り、腓内に上
り、腓内廉に出て、股の内後廉に上
り脊より、腎に屬し、膀胱と絡
ふ其直より、腎より上て肝膈と
つゝ、肺中に入、喉嚨とめり、舌の
本と挟ひ、其支は肺より出て心と絡ひ
胸中に注ぐ此經氣多く血少なり是
動多し、衄を衄て、食と欲せども面
黒く喘欬唾血坐して起と欲し、目
眩々として所見多し、心懸ぐ如
飢るがじ、氣不足し善恐し心惕々と
して人の捕とす、うづし生ども所の病
口熱し舌乾し咽腫上氣し、嗑乾し
のゝ煩心心痛黃疸腸癖脊より股
内の後廉より痿厥して、目と舌
足の下熱し、

腎精を藏し、志と舎と骨髓と齒と
寒し主る北方の水に屬し、冬に旺
し其脈石の如し、沈なり外候は
耳に在り、其色は黒し其味は鹹し其
志は恐る其聲は呻る、臭は腐し、その
液は唾その變動は慄その經は足少陰其
府は膀胱その積は貫脛膈の下にあり、
腎氣盛ると腹脹液泄小便黄し、
溢り、軀腫喘欬汗出、風と憎し、面目
黒し宜し、濕と不足と、
腰背冷胸内痛し耳鳴苦し、
聾と齒動と腰脊痛と唾血足の心
熱と痛と善と恐る宜し、補は

腎

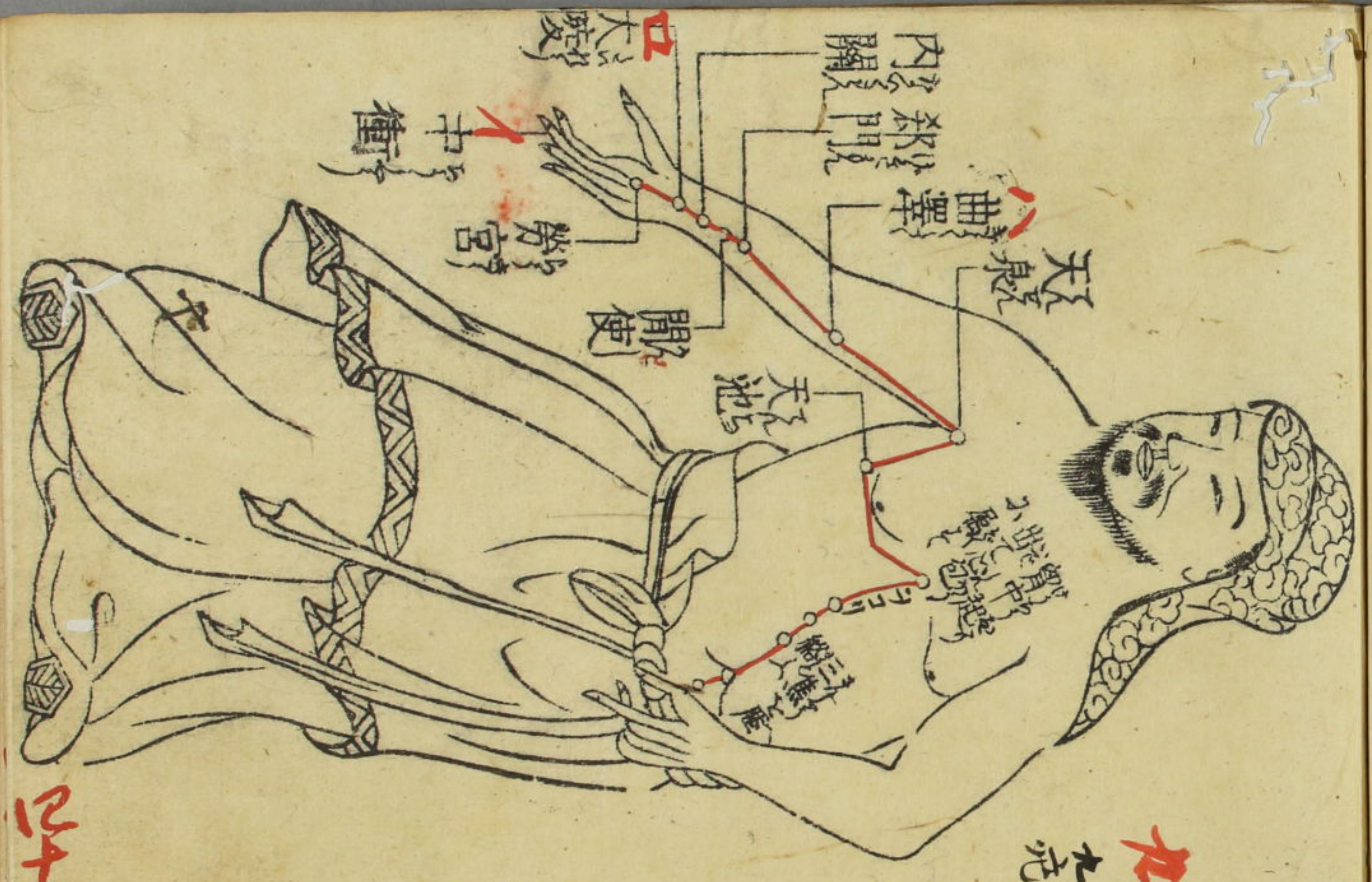
九八
心痛
身熱
嘔血
傷寒

●曲澤二穴肘の内の横文の中ふあり
 曲池へ遠く少海へらじ動脈の処也
 灸三壯針三分留ると七呼心痛身
 熱煩うも嘔血がさやるを肘腕搖
 傷寒逆氣嘔吐し頭を揺ると治と

九本

●中衝二穴手中指の内側ら爪の生際
 と去ると一分陷の中針一分留ると三呼
 灸一壯熱病のされぬ汗出で掌
 の中熱し身火の如く心痛手強ると
 治と心胞絡の虚これと補と

手の脈陰の包經之圖



九本

脈微緩

手厥陰心包絡の脈は胸中に起て出て
心包に属し膈と下て三焦とよまふ支
ハ胸とめがて脇に出て腋に下ると三
寸上腋の下に抵り下膈の内と循り
大陰少陰の間を行き肘の中に入臂小
下り兩筋の間を行き掌中に入り中
指とめが其端に出る支のまうれハ
掌の中より小指の次の指とめがりて
其端に出る此經氣少く血多し是
動とくくハ手心熱し臂肘變急
一腋腫る甚則とれハ胸脇支滿心中
澹々として大に動く面赤く目黄ふ
笑く休む生じる所の病ハ煩心心痛
一掌中熱と

十一 九

●腦空二穴承靈の後へ一寸五分灸三壯

針四五分氣と得く瀉し勞瘵癰を
瘦身熱し項強り頭重く痛目眩くと

十 一

●天井二穴肘より尖骨の後二寸兩
筋の間肘のつひ陥之中針三分

心痛

中化

耳

心痛咳嗽上氣唾膿血まじり不食
寒熱同とありと驚悸てんん中風
耳ととと喉痺目あり痛と頰とれ
耳後肘のつひらと腰臑項頸のつひ
大風痛じ処と知と心まらと脚氣と治

十 四

熱病

咽心

車目

三焦虚

●中者二穴手小指と無名指との間無
名指の本節の後へ陥之中とありら
液門のありへ一寸五分灸三壯
針二分留ると三呼熱病汗出と目
まみ頭つと咽とれ耳ととと目膜と
生し久瘡肘手指のつひ屈伸する
治と三焦の虚とれと補と

三十一

● 少陽三焦の脈は小指の次指の端から起り、次指の間に出て、手表腕の骨の外兩骨の間に上り、肘の少陽の後に交り、出て鉄盆に入り、臑中にまゝ散じて心包と其支の臑腑を下り、偏は三焦に屬し、其支の臑中より上り、鉄盆に出て項の上りて、耳の後と掖と直り、上りて耳の上角から出て、屈く頰を下り、頰に至る所の支は耳の後より耳の中に入り、却て出て目の銳眦に至る。此經氣多く血とくは是動とくははるる耳聾の病、喉痺、是氣と主る生むる所の病、汗出目銳眦の病、頰の病、耳の後、肩臑肘臂の外より痛む、小指の次の指の病、はらむる病。

十六

○

十七

● 外丘二穴、外踝の上七寸、陽交と相並、陽交の前外丘の後、針三分、灸三壯、胸滿頭項の病、惡寒、犬は傷られ、發熱してんん小兒の龜胸と治す。

● 章門二穴、臍の上二寸、兩旁へ九す、側臥して之の足の背より下の足の背の骨の肘の尖のわらわら處の肋の端、針六分、分留々と六呼、灸百壯、五百壯まで、腹鳴、食化せず、胸脇の病、臥して得ず、煩熱、口乾、不食、喘息、心痛、食傷、嘔吐、腰脊冷、白濁、寒疝、多くは腹腫、脊強り、肩臂拳、四肢懈惰、身黄、瘦善、癆、少氣、厥逆と治す。

十八

● 陽關二穴、陽陵泉の上三寸、犢鼻の外陷の中、五分、禁灸、風痺、膝痛と治す。

○土仁

●肩井二穴肩の上陷の中鉄盆の大骨の後一寸半肩の中央より指三寸五分推して中指の下陷の中灸五壯針五分刺し悶倒さる悶倒せし三里針して柳一の中風氣塞り延上て語らば腎虚して腰の骨上氣短氣逆氣風勞撲損臂尻の頭項痛うつろふこと得と五勞七傷婦人難産臨胎の後手足冷弱者針して則ち日に灸ると七壯より二百壯まで
●京門二穴直に章門の後十一枚めの肋骨の先を正へてある陷と俗に後章門といふ処より灸三壯針三分留と七呼腸鳴り小腹の肩の骨を治と

土木

小腹痛
中風口
ヨダレ出ズ
言フテキズ

土三

ゼニソク

土八

中凡

冷
土五

○土ト

痛肌

●承靈二穴正營の後一寸半灸五壯禁針頭の惡寒惡風喘息と
●陽陵泉二穴膝の下一寸筋の外と膝の骨の外と外側の折目のより一寸下灸三壯七壯より五十壯まで針六分留ると十呼氣と得て即ち瀉と膝の骨の屈する腿の骨の痺中風半身遂りど足筋攣り頭面とを治と
●環跳二穴髀樞後の中病人側卧と下足と伸上足と屈して腿と腹と胞と付るを股と腰との二つを折る横文の頭ら筋骨の解め灸三壯五十壯針一寸留と三呼冷風濕痺不仁遍身半身遂りや腰脚の伸縮を治と
此より以下の十四穴は足少陽膽經

足少陽

十一

●竅陰二穴足の小指の次指の外側爪の生際の角と去ると二分灸三壯針二分留ると二三呼脇痛欬逆息とと得と手足煩熱汗出ととんえ癰疽心のされ舌こり口乾と口痺肘のこり耳のこり目いこいと治と

ノナ

●風池二穴腦空の後耳の下面の通り項の堅の鬢際の際の中とから推ば耳の中へ應る處針三四分あつて七分留ると二三呼灸七壯傷寒と移る温病汗出と目眩とあつて偏正の頭痛痰癆頸項めくくと痛まると

七本

●玉枕二穴曲差の後八寸半頭の中に行より左右へ一寸五分開くと灸三

上

●壯針ハ禁穴なり月眩目のこり頭項のこり鼻塞り香臭と聞ざると治と

十一

●臨江二穴足小指の次指の本節の後の間隙中夾谿と去ると一寸五分禁灸針二分留ると五呼胸脇脇と支へ振寒心痛周身痺痛常の處の厥冷氣喘瘧日々にたり婦人月經通せど乳癰と治と

十一

●丘墟二穴足の外踝の下骨縫乃中臨泣と去ると一寸五分灸五寸蹠の骨の灸三壯針五分留ると七呼胸脇と支へ振寒頸腋の下と腰腿筋のこり轉筋卒疝小腹と寒熱太息とと治と

十一

●地五會二穴小指の次指の外側夾谿と去ると一寸針二分禁灸腋痛と内

十一

●損唾血足の外と乳と

七

十一

●光明二穴外丘の下二寸灸五壯七壯
針六分留ろく七呼虚とれ疾痺
實とれ足筋熱痛身體不仁

十二

●中瀆二穴環跳の下髀の外膝の折目
の上五寸分肉の間灸五壯針五分留
七呼寒に感し解膝痺いん治と

十三

●陽輔二穴陽文の下三寸針五分留
七呼冬三壯腰足冷膝心腸頭
角領目背喉諸の節くく汗
常の処く痿痺不仁口苦汗
出振寒く瘡こうの治と

十四

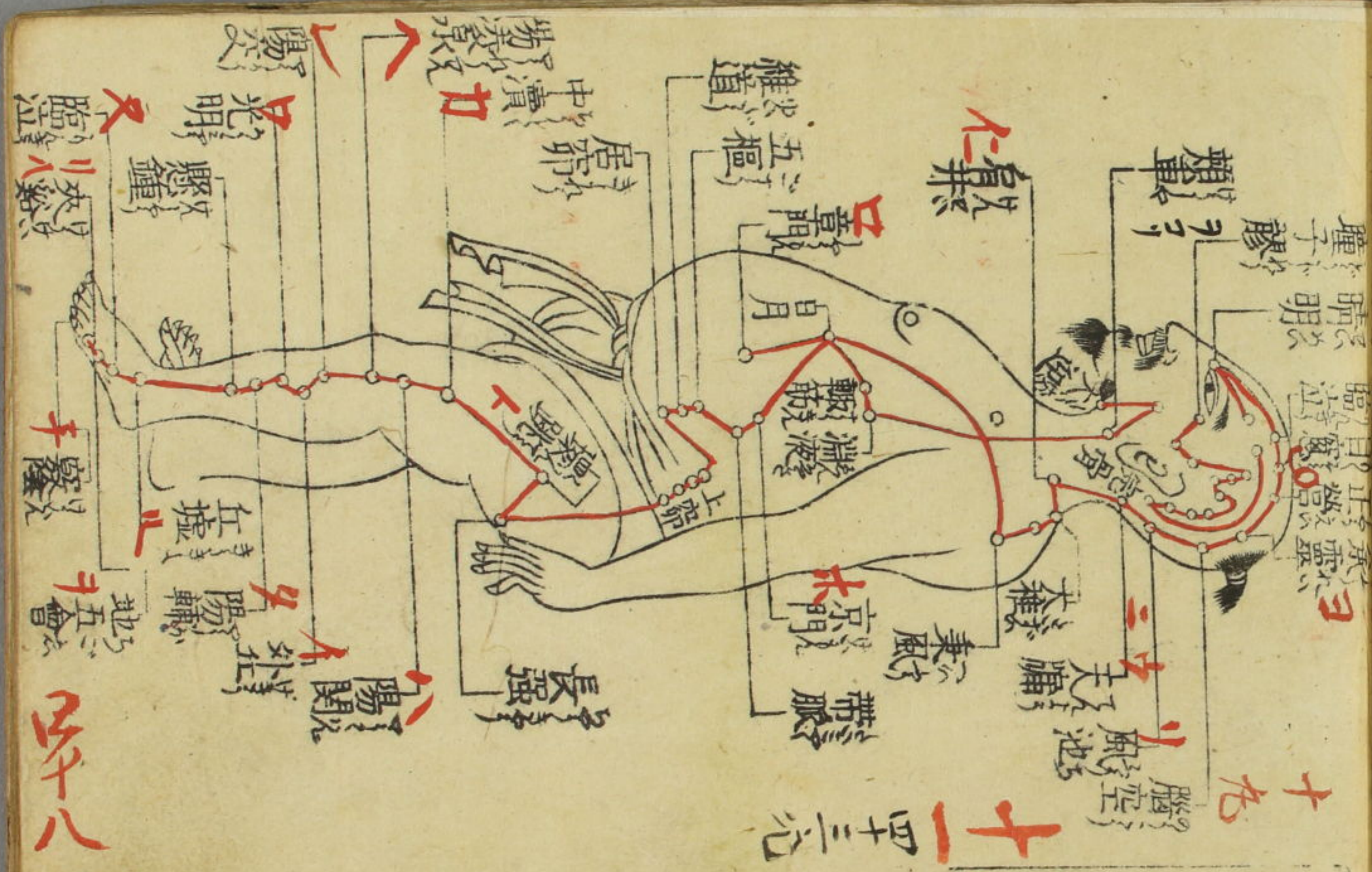
●陽交二穴外踝の上七寸外丘の前
針六分留ろく七呼冬三壯胸滿足膝
厥冷驚狂の面腫を治と

十五

●足
●陽交二穴外踝の上七寸外丘の前
針六分留ろく七呼冬三壯胸滿足膝
厥冷驚狂の面腫を治と

足の火陽膽經之圖

〇日ノ十一



子ヲカリ汗コラテ
 足少陽膽の脈の目
 脈弦ニシテ
 合ノキイ
 ミミニビレ
 カニ熱往來
 アルハ

足少陽膽の脈の目、銳骨起り上
 頭角に抵り、耳後より下り、頸に循
 り、手少陽の前より、肩上に至り、
 却て少陽の後に交り出、缺盆に
 入る。其支、耳の後より、耳中に入り、
 耳の前に出走り、目のまどりの後に
 至る。一の支、目のまどりのより、別して
 大迎に下り、手少陽に合し、頰に抵り、
 下り、頰車に加里、頸より下り、缺盆に
 合し、胸中に下り、膈よりつゝ、わき肝
 下に、まゝの膽に屬し、脇の裏より、
 氣衝に出、毛際より、横に、脾、
 の中に入り、其直より、の、缺盆より
 腋より下り、胸より、季脇より過り、
 下り、脾陽より、膝の外廉より出、
 外の輔骨の前に下り、直より下り、絶

骨の端より、抵り下り、外踝の前より、
 足の跗上より、循り、小指の次指の間より、
 入る。一の支、足より、跗上より、大指
 の間に入り、大指の岐骨の内より、
 その端に出、還て、貫て、爪甲に入り、三
 毛に出る。此經氣多く、血少し、是動
 じ、口苦く、善太息し、心脇
 い、轉側し、甚し、とん、
 面塵、體澤、ひ、足外熱、と、これ
 骨より、生じ、所の病、頭の角
 領、目の銳骨痛、缺盆の中
 腫痛、腋の下、馬刀、挾癭、汗出、
 振寒、痲痺、ひ、膝、脾の外、脛、
 い、絶骨、外踝の前、及び、諸節、
 痛、小指の次指、ら、ら、れ、と、

四十九

腹十二イ
疝血明

●中都二穴直上五寸溝の上二寸針三分
灸五壯腸下り疝氣婦人の血崩と治と

十二ロ

婦人

一切治
子ラム

●陰廉二穴氣衝と斜と下ると二寸股
の附根針八分留ると七呼灸三壯
一切婦人の病と治と子あ人或は子
落やと人此に灸して妙なり腹の部
此より以下の十一穴は足厥陰肝經之

〇十六ハ

●百會 一穴一名三陽五會 前頂の後へ
一寸五分前の髮のそとより五寸
上旋毛の中はあり兩の耳の尖の直

頭の真中より針一分又八四分灸七壯
あつひら三五壯頭風中風言語塞言流
口噤と半身の心煩と悶へ驚悸
健忘痰瘡脱肛風癩角弓反張羊鳴
多く哭て語言擇りて發ると死入
沫と吐と汗出乾嘔と酒と飲と面
赤く腦重く鼻と頭つと目
まの食と味と主る百病と治と

五平

十二仁

疝陰丸 股下 血塊 腹小使

十二木

疝陰 腹小使

十二ト

心小便 腰腹漏

●曲泉二穴膝どかめて内の折目の頭ら

大筋の上小筋の下の点を針六分

灸三壯疝氣ゆて陰丸腫内股の

房事大過して泄痢女の血塊を治す

●五里二穴陰廉の下一寸陰包の筋の

点と針六分灸五壯腹中滿熱して

小便通ぜざらんと治す

●蠡溝二穴内踝の前の通りと踝の

五寸に点と針二分留ること三呼灸三

壯七壯疝氣疝の下に積氣石の

針五分灸三壯かたり寒疝腰の

るの陰囊縮て腹に入相引痛と主る

●大衝二穴足大指の側ら本節の後へ

二寸針三分灸三壯心痛小便ちり腰

より小腹引いゝ婦人の漏下と治

十二子

心足喘 痰

十二リ

△上又 ヨコ三寸五

期門巨關

戸一厥

不仁シテ身

體ヲボス

尸状如

厥ハ陰陽

相順セザ

●大谿二穴足の内踝の後五分跟骨の

上動脈の処針三分灸三壯久瘧心

痛足冷痿喘息痰實と口中滑る

●期門二穴不容の傍と寸五分又日

乳より直一寸半下針四分灸五壯

胸中煩熱貫豚上下目青と嘔

霍乱洩利腹くく大あけ喘目と

能と脇下積氣傷寒の心痛嘔酸不

食々後水と吐と胸脇支痛血塊口

かると消渴さんごの餘病尸厥傷寒の

腹とら證帯寸脈微すと緊あるとの

又發熱惡寒一太一瀉と腹積自汗

小便利とる者又五六日諸語止とる者

婦人傷ん發熱惡寒經水なまき来り

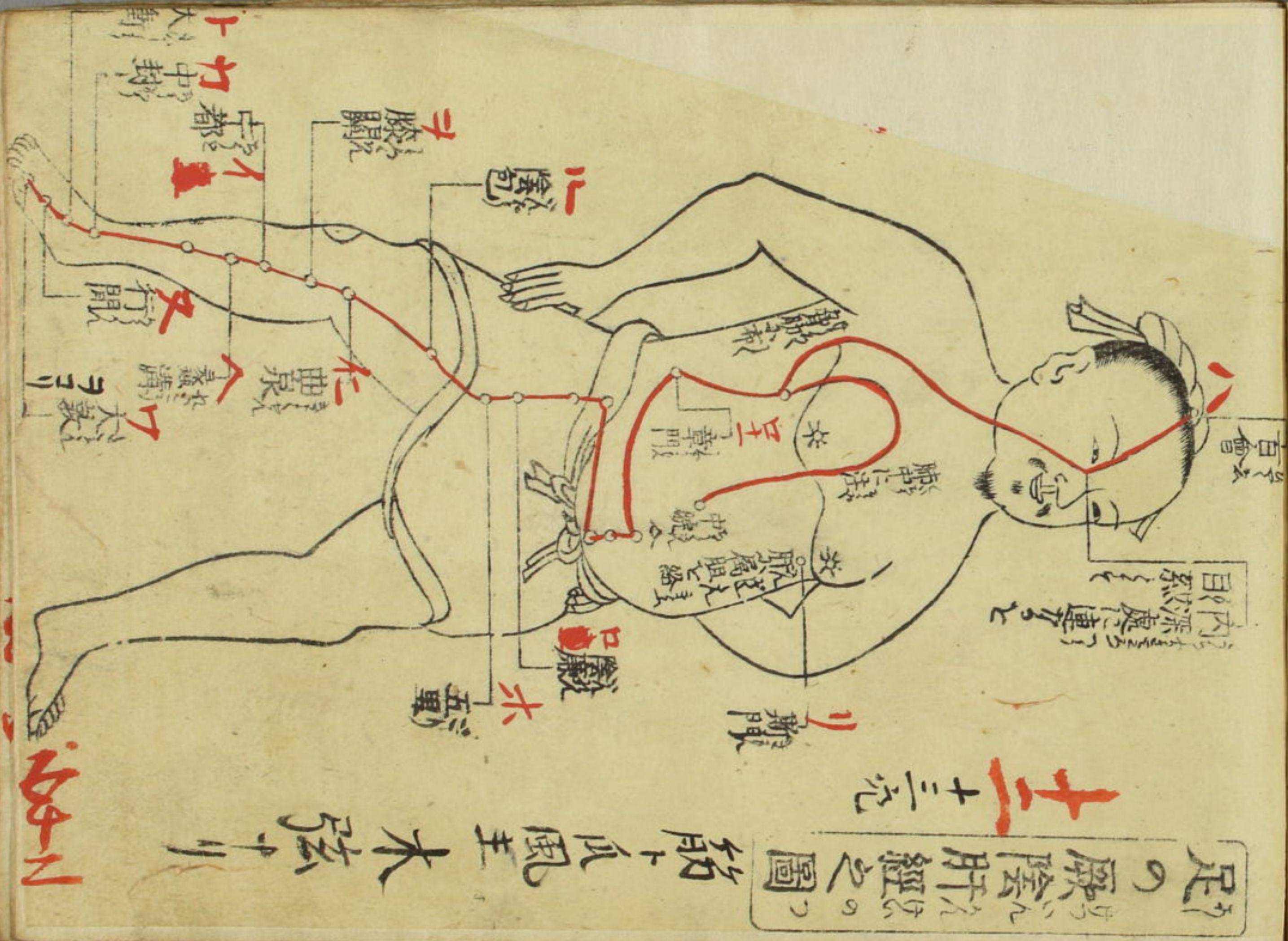
七八日熱除て脉遲身涼と胸脇積諸

五十一

十二又
嘔吐下り
淋月水
陰のこ
腰尻小
使

●行間二穴足大指と次指との縫の
間とに大指の方へ入り針六分
灸三壯嘔吐洞泄陰莖の中痛淋病
婦人經水多く下して止むと治む
●陰包二穴直に曲泉の上四寸跪坐され
て此所の肉小溝出で膻の下の兩筋の
間針六分灸三壯腰尻より小腹引
くると小便覚へて通ると治む
●膝関二穴膝蓋の下に半の鼻の
とく陥り其下二寸に点と針四
分灸五壯膝痺も疼も咽中痛も治
●大敦二穴足の外側爪生際
と去と一分入り針三分灸三壯五淋
七疝陰莖の痛死婦人の血崩と治
●中封二穴足の内踝のまへ二寸とら
大指と次指との間の通りに点と

十二カ
血崩
淋心
庫冷
膝咽



上ナリソコニツヨクアツホソシ

ホソシテ

足厥陰肝の脈は、大指の聚毛の上に

脈沈瀦

かゝる足跗の上廉とめらり内踝と去

多ミテ

一寸踝の上ること八寸太陰の後

キダダナリ

に交り出て、膈の内廉に上り股とめ

此脈虚

る陰中に入る陰器と環り小腹と抵

脈ヲ主

胃と挟く肝と屬し膽とまじふ上

本脈ハ

と膈とつめと脇肋に布ら喉嚨の

弦ナリ

後とめらり上と頤頰に入り目系に

らあり上て額に出て督脈と巔に會
と其支は目系より頰の裏より唇
の内と環る一支は復肝より別きて
膈上とつめと肺に注ぐ此經血多
氣少し是動とれは腰痛と俛仰と
つがず丈夫の癩病婦人の小腹とれ
甚しとせはの嗑乾ら面塵の色と號

是肝と主る生る所の病の實ら
嘔逆洞洩孤疝遺溺癰閉

凡此十二經の病の實とるこれ之
と瀉し虚とるこれハ補の執る

と疾し寒すとこれハ留
陷下とるこれハ實とる

虚とるこれハ取る

肝は血を藏し塊と含と筋と瓜と風
を主とる東方の木に屬し春と
旺し其脈は弦と外候は目とあり
其聲は呼と臭は臊と味は酸と
其液は泣と色は青と其志は怒と
其經は足厥陰と府は膽と其變動
握と積は肥氣杯と左の脇
の邊に覆る肝氣盛るとは目赤
兩の脇の下痛と小腹と引と怒り
氣逆と頭眩と耳聾と
額腫と宜くと瀉と不足と
入は目明くと兩の脇拘急筋
寧り太息ととと得と木甲枯と

●督脉下極の胸二陰の間ふ起る脊裏ふ並て上と風府に至り、腦に入る顛より額より鼻柱に至り、陽脉の海に屬す此病とさへ脊強り反折る其絡ハ陰器より募間ふ合し募後より繞り別は腎より繞り少陰巨陽ふ至る中絡少陰の合し腹内後廉ふ上り脊よりつめき腎に屬し太陽と目の内眥ふ起り額に上り顛上ふ交り入て腦より還出て別は項より下て肩膊より循り脊より挟し腰中に抵る入く脊より循り腎より絡ぶるの少腹直に上るもの臍の中央より上と心よりつめき喉に入顛に上り唇と環り上て兩目の中に系る

十三イ

キチカイ
○ラニ
カニ

十三ロ
水腫

●神庭一穴額の真中前の髮際より五分上にある灸三壯ありの二七壯●
在乱らん驚風天吊角弓反張舌と吐し人事とろと眩暈つゝ寒熱濁涕止目涙出驚悸怔忡不寐嘔吐喘渴とろと治と 禁針の穴あり
●前頂一穴額會の後一寸半前の髮際際より一寸半上骨の間陷の中灸三壯二七壯針一分ありの四分頭風面赤とれ水腫でらん眩暈とろと瘻瘻とれとろとろとろとろと

十三ハ
ヘツツ

●後頂一穴の名の交衝百會の後へ一寸五分前の髮際より六寸半灸五壯針二分三分四分項強り額上痛と惡風寒く風眩目眩々歴節して汗出狂走不寐癩發瘦癭偏頭痛と主とろ

仁

月水 帶下

十三木

ヲコリ 中風

十三火

ハナ血

十三ト

ヲコリ

十三カ

十三タ

●瘧門一穴一名舌厭一名舌橫一名八瘡門
熱し月經通せば帶下を治す

●陽関一穴十六推の下針五分灸三壯
久き瘧腰膝のこも小腹のこも中風不
仁筋牽り行さるるを治す

●顔會一穴上星の後二寸髮際より三
風府の後五分あり針四分二分留る
と三呼し瀉し五吸し瀉し盡
そ更し針を留めてこれを取ら灸禁
穴あり舌急すと語らば重舌とらるる
の陽熱氣盛はて鼻衄止むるを治す

●腰俞一穴二十一推の下灸七壯四十九
壯針二分留ると七呼ありの八分留
と三呼瀉し五吸腰尻背のこも温瘧
汗出と足膝不仁してのこも傷寒四支

●瘧門一穴一名舌厭一名舌橫一名八瘡門

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

十三子

十三カ

十三タ

●更し針を留めてこれを取ら灸禁
穴あり舌急すと語らば重舌とらるる
の陽熱氣盛はて鼻衄止むるを治す

●強間一穴の各穴大羽後頂の後二寸半

●灸七壯五壯針二分頭痛めまの腦
のめまの痛し心煩し嘔吐項より臥
すと得ざるを治す

●身柱一穴三推の下灸三壯より百壯
中を癩癩狂乱腰背のこも小兒の驚
癇五疳を治す俗にわりのこも此穴也

●上灸二三壯ありの二七壯針灸禁
穴あり腦虚冷ありの酒食を治す

●腦痛破るる風頭眩顔めまの
血面のこもわらぬ腫れ頭皮を白
層を生し鼻塞して香臭を聞かば驚悸目
戴上し昏く人を知ざるを治す

●戴上し昏く人を知ざるを治す

●戴上し昏く人を知ざるを治す

●戴上し昏く人を知ざるを治す

●戴上し昏く人を知ざるを治す

●戴上し昏く人を知ざるを治す

十三又

●上星二穴の名の神堂神庭の後五分
髮際に入ると一寸陷中針三四分留ると
六呼灸五壯頭痛面赤腫皮とれ
鼻中に息肉の鼻やぶり痰癰汗
不出めい目ありの遠く
しめい吐血とら治す

十三

●長強二穴脊の骶骨の端俗の龜の尾
と云處あり針二分留ると七呼灸五
と云處あり

●是痔の
根本あり腸風下血久痔腰背の
在乱大小便く頭重く洞泄淋病小
兒顛陷り驚風癩癩瘰癧嘔血驚恐
視と正く主る脊強るこれ
と瀉し頭腫る者とれと多し

十三

●命門二穴と四推の下針五分灸二壯
或ハ五十壯百壯久瘧腰腹引痛久
頭痛發熱汗出と寒熱蒸五藏熱
下血小兒さやせん反折と治す

十三

●風府一穴一名舌本強間の後二寸五分
後の髮際より一寸針三四分留ると
三呼禁灸夕中風舌緩り語ら
振寒汗出と身重と惡寒と項
強て回顧と得と偏風半身うか

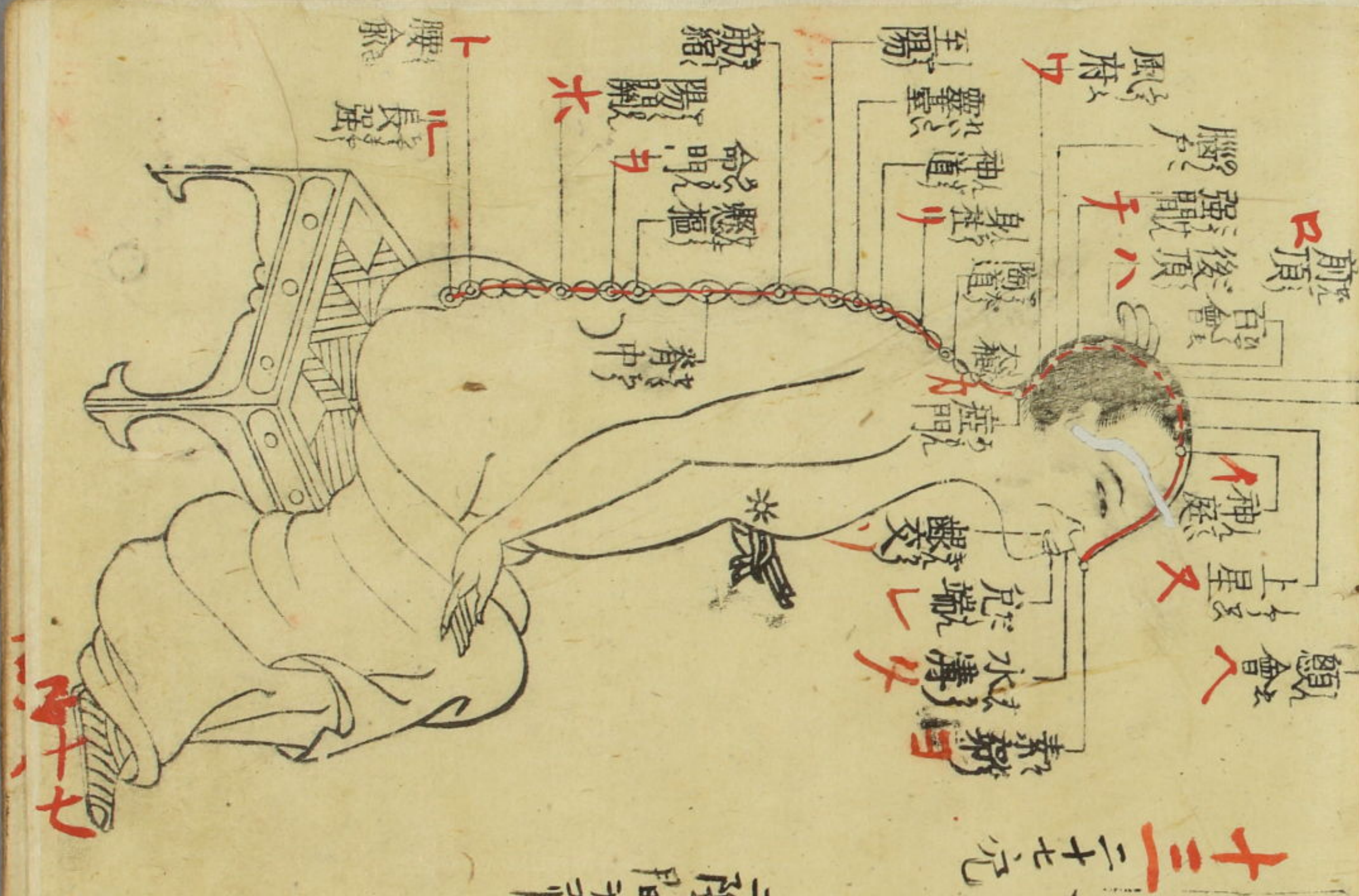
●咽腫
●車
●頭痛
●苗道
●身痛

くから咽喉と痛と傷寒狂走目
妄に視ると治と頭の百病黃疸と主る
傷寒と惡風發熱身疼と者或ハ
耳聾胸痛嘔と頭痛寒熱
性來と者並小風池風府と刺し

十三ヨ十三 ●素第一穴鼻柱の尖より針一分林灸
 鼻内の息内鼻塞りくまら喘息と治す
 十三タ十三 ●水溝一穴名人中鼻柱の下灸三壯
 針三四分留るく五六呼吸と得て海
 消渴水腫癩癩狂乱中風中惡黃疸と治
 十三レ十三 ●允端一穴上唇の赤き肉と白き肉との
 際め針二分灸三壯癩癩小便黄よ舌
 乾と消渴とよむ唇強り齒齲の
 鼻ぶさぐり痰涎口噤と主る
 十三上十三 ●斷交一穴唇の内上齒の縫の中
 針三分灸三壯鼻中の息内鼻ぶさぐり
 十三上十三 ●額類の目の内背赤く七痺の
 額類の目の内背赤く七痺の

督脈之圖

十三二十七穴



二張間ラコリ

●此病ハ
 少腹より上て心に衝くのみと大小便
 通ぜぬ衝疝と云々癰痔遺溺噎乾
 督脈の別名長強といふ脊を快と項
 に上り肩脚の左右に當り別に太陽
 ふ走り入て脊を貫く實を則ち脊強
 虚を則ち頭重とれと所別を取る

○古イ

膈ホ胃
 食喘
 心膈
 痢疾
 疝積

古ロ

上気
 咽腫
 咽冷
 声破
 膈
 嘔吐
 上ヨリ

●中腕二穴・上腕の下二寸肘の上四寸
 針一寸二分わりの八分留ると七呼瀉
 五吸して針と出ると灸日に十四壯を
 三四百壯まで膈噎縦胃不食喘息
 腹脹中惡心腹の痛疾疝氣積聚
 傷寒疫病温瘧先腹の先瀉一霍
 乱洩出と知と身冷恍惚と仲と

●天突二穴頭の結喉の下四寸宛々

中灸三壯五壯針一分五分留ると三呼
 氣を得て瀉と若針を直下下手と
 低るといふ五臓の氣傷ると短命と
 面熱上氣欬逆氣暴に喘に咽腫
 咽冷声破喉中瘡を生し膿血を咯さ
 瘡と云ふ能と寒熱頸腫哮喘喉
 中鳴胸中魚鱗の立ると舌の下
 急心と背と相引く痛膈膈嘔吐と

志八

腹鳴痛

食

上下

木二胃

全積

首疽

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

積

志九

血淋

積塊

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

塊崩

尸厥

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

不仁

上腕二穴巨少の下寸臍の上五寸針

八分先補後瀉と風痼熱病先瀉

後瀉補して即愈灸日に十四壯より

百壯より未愈とれば倍とす

腹鳴痛食化せし霍乱吐利腹の

身熱汗出と翻胃嘔吐不食腹脹り

氣浦心忪と驚悸嘔血痰涎多く玉

積黃疸虚勞吐血の

巨闕二穴肋骨の真中の

二寸下針六分留ると七呼氣を得

く即ち瀉と灸七壯より七々壯まで

上氣咳逆胸の短氣背の心痛

痰飲霍乱吐逆驚悸怔忡腹脹暴

の心忪不食傷寒心煩嘔逆發狂黃

疸痼痼小腹痛尸厥妊婦子心へ衝く

昏悶とす

昏悶とす

昏悶とす

石門二穴各一丹田臍の下二寸灸七壯より

二百壯まで灸五六分留ると七呼或は

八分留ると三呼氣を得て即ち瀉と

婦人此穴に針灸とれば一生懐妊せし

傷寒小便赤く通じ泄瀉止む血淋

吐血積塊とん腹の不食水腫血

塊崩血と治す

陰交二穴臍の下二寸針八分氣を得

て即瀉と瀉して後小補す灸

灸一壯より百壯を妊婦は忌心腹の

陰中引いて小便通じ疝氣陰汗濕

る腰膝つらむ臍下熱し鼻血

婦人の崩漏月水と帯下産と惡露

止む臍の繞り冷痛と陰痒く積塊小

兒の胎願と治す此穴に灸針とれば

一生子と孕ます

一生子と孕ます

一生子と孕ます

一生子と孕ます

一生子と孕ます

一生子と孕ます

一生子と孕ます

一生子と孕ます

五十九

七ト

●氣海一穴臍の下一寸半灸七壯針八
分氣得て瀉と瀉して後補也
傷寒湯水多飲て腹脹氣喘心
の下痛冷病面赤く真氣不足し
一切の氣病久く差と瘦羸四支力弱く
積聚えん血塊臍の下冷氣い心痛
中惡泄痢大小便通て崩漏帶下月
水調つ産後惡露止と臍腹痛閃著
腰のこ小兒の遺尿と治と

七子

●關元一穴臍の下三寸灸七壯より三
百壯より針一寸二分留ると七呼或
八分留ると三呼瀉五吸妊婦禁針
精冷虚乏く臍中絞つ寒氣腹久
くい血氣劣熱積聚風眩つ洩
利小便通て淋病失精白濁溺血下
血崩漏月水通て帶下と治と

七リ

●膻中一穴兩乳の間膈の真中灸七壯
五十壯禁針中氣上氣短氣欬
逆噎膈嘔吐不食喘促咳嗽胸塞
心膈の肺癰唾膿乳汁少と治と

七又

●中極一穴臍の下四寸灸五壯より
百壯より針六分留ると十呼氣と
得て即ち瀉と積塊心け上り疝氣
陰寒陽氣虚億水腫小便頻數遺
精さん惡露行胎衣下る月
經調て子門腫い淋病恍惚尸厥
飢て食とる能る子る婦也

七兒

●下腕二穴建里の下一寸臍の上二寸
臍下より動氣上り腹堅く胃脹腹
の六府の氣寒し穀轉化と羸
瘦小便赤く翻胃不食と治と

七寸 水分一穴下腕の下二寸臍の上二寸

水分 針五分留ると三呼水腫お刺へ水

て即死と水病お灸四十九壯より四

百壯お灸る大おは水腫脹満小便

通せし轉筋不食臍腹の心は沖を

腰背こり腸鳴り鼻衄小兒顛陷を

てんん及張脱肝治を卒中風變らる

灸百壯とれへ懸るそれれてと懸ると

又百壯とて

○七寸 神關二穴臍の真中より禁針也

中凡 刺臍の中悉く蕩生じて死を灸と

水腫 輕と病を根にとて急症重と

病お塩味嚼と布てとて中風

卒倒く懸る久く冷と泄痢止と水

腫鼓脹腸鳴り臍腹のこり小兒驚風

七寸 璇璣二穴大突の下二寸灸五壯針三分

咽腫 胸の骨痛と頰と喉痺咽腫と主と

七寸 石關二穴おんどの下二寸針一寸灸三壯

嘔吐とけり腹と氣淋大小便通せ

心下堅滿脊強り自赤く女の血塊と治

七寸 建里二穴中脘の下二寸臍の上三寸灸

心痛 五壯針一寸二分おん五分留ると十

呼腹脹身腫心痛不食と治と

七寸 曲骨二穴臍の下五寸横骨の上毛

際の際中灸七壯より四十九壯を

帶下 針一寸あるおん六分留ると七呼

五藏虚弱冷極て小腹脹痛と小便

通せし淋瀝遺精赤白帶下と治と

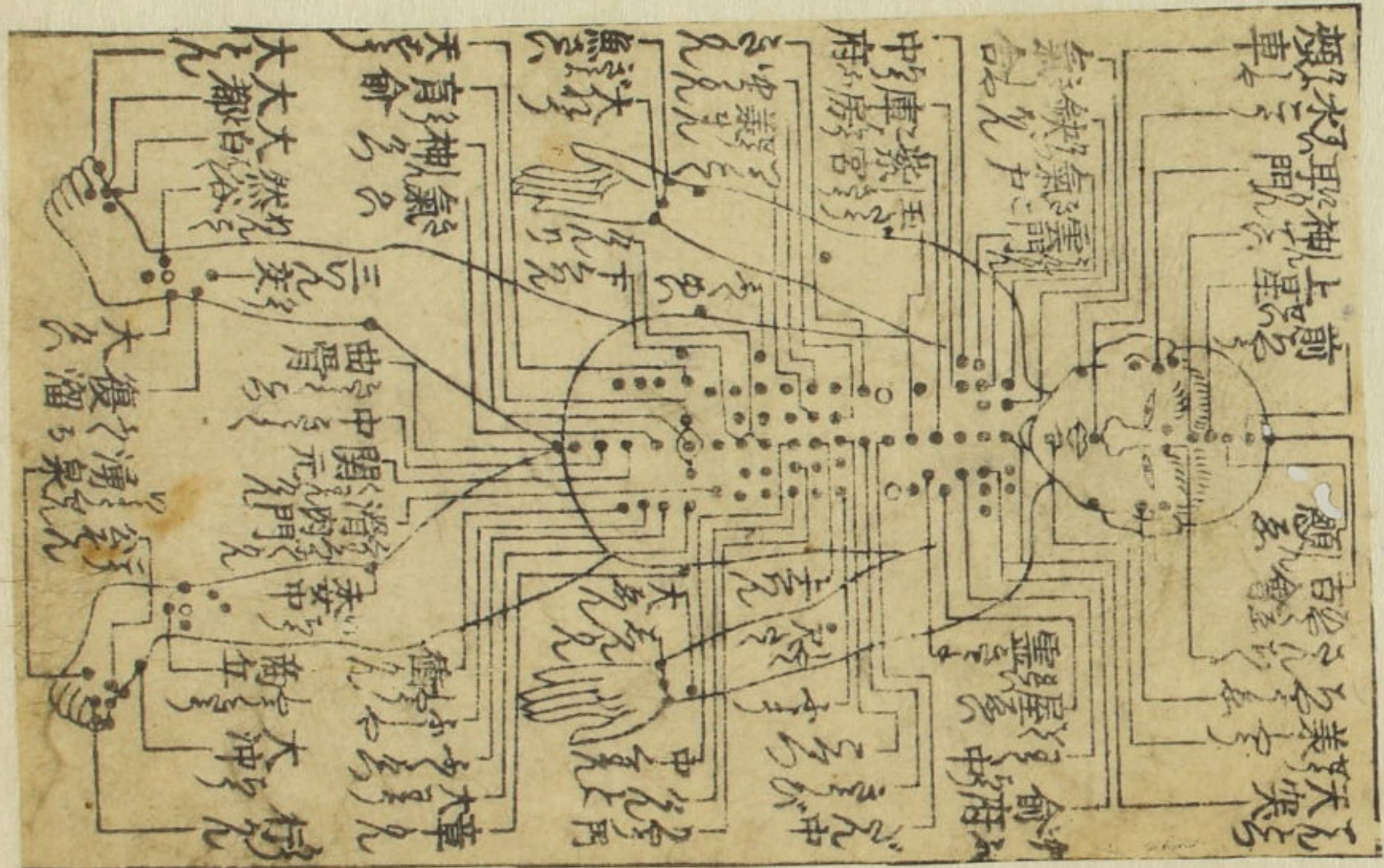
七十一

●任脈の中極の下に起て毛際の上り
 腹の裏にめぐり関元下丹田のウケ
 喉嚢に至て陰脈の海に屬せ又曰
 胞中に起て脊の裏にめぐり經絡の
 海に其浮て外あるもの腹にめぐ
 り上行く咽喉に會つて唇
 口より血氣さうりたるは肌肉
 熱を血獨り盛るとは毫毛を生
 じ其病うつし男子は七疝女子は帶下
 瘰癧と

奇經八脈

督脈	○任脈	陽蹻脈	陰蹻脈
衝脈	陽維脈	陰維脈	帶脈

禁針禁灸の圖。ハ針。ハ灸。





藏板 十卷